

日本建築学会近畿支部創立七〇周年記念誌



2007
|
2017

日本建築学会近畿支部創立七〇周年記念誌

目次

02	支部長挨拶・歴代支部長
03	常議員・支部監事・事務局職員
04	実行委員長挨拶
05	70周年記念事業（講演会・式典・祝賀会・見学会・シンポジウム）
06	特色ある活動
12	支部活動状況（大会）
13	支部活動状況（表彰事業）
14	支部活動状況（部会活動）構造・材料系
16	支部活動状況（部会活動）環境系
18	支部活動状況（部会活動）計画系
20	支部活動状況（部会活動）横断領域
22	支部活動状況（支部活動）
23	支部活動状況（支部主催 講演会・シンポジウム）
24	支部活動状況（委員会、部会主催 講演会・シンポジウム）
26	支部活動状況（刊行物）
27	支部活動状況（見学会）
28	作品選奨
32	法人・賛助会員／70周年記念事業協賛団体／70周年記念事業委員会
33	編集後記

支部長挨拶 近畿支部創立70周年にあたって



日本建築学会近畿支部
支部長 三輪 康一

日本建築学会近畿支部が1947年に創立され本年で70周年を迎えます。その間、諸先輩方の不断の努力の積み重ねの結果、現在、支部会員数4900名を超え、25の常置研究部会の活動、支部研究発表会、講演会や講習会、展覧会・見学会、親と子の都市と建築教室、卒業設計コンクールの開催、在阪建築関係団体との交流などさまざまな活動を行っています。これらの活動は支部会員の方々の、近畿という地域の固有の特徴を踏まえた自立的、自発的な姿勢によって推進されてきたもので、その姿勢は敬意をもって受け継ぎ、次代に引き渡していかなばなりません。

今世紀に入り、わが国では人口減少と高齢化社会、地球規模での環境問題、大規模災害への対応など、これまでにない深刻な課題に直面しています。こうした厳しい社会情勢のなかではありますが、70周年という機会に、会員のみなさまのご理解のもとに、記念事業委員会・実行委員会を設置し、関係各位の多大なご支援のもとで記念事業を遂行することとなりました。

この記念事業ではメインテーマとして、「関西から考える建築の未来」を掲げています。これは、歴史と文化が蓄積され、様々な分野間の連携や人と人のコミュニケーションのよさを誇る近畿=関西という地域独自の個性と潜在力から、それを踏まえた独自の活動を続けていくこと、混迷する社会情勢のなかで、学術活動とともに、学会支部の社会的使命、地域社会のなかで果たす役割を改めて再確認しようとするもので、このテーマのもとで、記念式典、記念講演会、見学会、連続記念シンポジウムなどを実施してまいります。

本記念出版も記念事業の一環として、主にこれまでの特色ある支部活動を記録し、次代につなげるものであります。ご執筆賜りました方々には厚くお礼申し上げます。

これら一連の記念事業を機会に、支部会員のみなさま、関係団体、市民のつながりがさらに深まり、とりわけ若い会員にとって魅力的な、また各地域の人々にとって頼りがいのある学会支部の存在を広くご理解いただければと存じます。

末尾となりますが、この記念事業に際し会員のみなさま、関係各位の多大なご支援ご尽力を賜りましたこと、ここに深くお礼申し上げます。

歴代支部長

昭和22-23年	坂 静雄	昭和46-47年	鳥田家弘	平成7-8年	加藤邦男
昭和24-25年	森田慶一	昭和48-49年	堀内三郎	平成9-10年	竹内吉弘
昭和26-27年	村田治郎	昭和50-51年	足立 孝	平成11-12年	辻 文三
昭和28-29年	棚橋 諒	昭和52-53年	堯天義久	平成13-14年	安田丑作
昭和30-31年	坂 静雄	昭和54-55年	若林 實	平成15-16年	大野義照
昭和32-33年	中沢誠一郎	昭和56-57年	相川 浩	平成17-18年	杉山茂一
昭和34-35年	鷺尾健三	昭和58-59年	前川純一	平成19-20年	渡邊史夫
昭和36-37年	元良 勲	昭和60-61年	五十嵐定義	平成21-22年	森本政之
昭和38-39年	伴 潔	昭和62-63年	金多 潔	平成23-24年	横田隆司
昭和40-41年	前田敏男	昭和64-平成2年	池田有隣	平成25-26年	小坂郁夫
昭和42-43年	奥島正一	平成3-4年	松本 衛	平成27-28年	門内輝行
昭和44-45年	鬼武信夫	平成5-6年	鈴木計夫	平成29-30年	三輪康一

歴代常議員・支部監事(平成19年～平成29年)

第62期常議員(平成19年6月1日～平成21年5月31日)
荒木 慶一 京都大学
木多 道宏 大阪大学
北村 潤 東畑建築事務所
高垣 太平 奥村組
椿 英顯 竹中工務店
中村 俊治 大林組
三輪 康一 神戸大学

第63期常議員(平成20年6月1日～平成22年5月31日)
神澤 宏明 鴻池組
小坂 郁夫 京都工芸繊維大学
田村 修次 京都大学防災研究所
松下 敬幸 神戸大学
山浦 晋弘 安井建築設計事務所
吉澤 幹夫 日建設計
吉田 哲 京都大学

第6期支部監事(平成20年6月1日～平成22年5月31日)
上田 真己 神戸市
渡辺 義仁 奥村組

第64期常議員(平成21年6月1日～平成23年5月31日)
岸本 一蔵 大阪大学
笹村 欽也 東畑建築事務所
服部 晃三 奥村組
藤井 正則 大林組
藤田 勝也 関西大学
藤谷 秀雄 神戸大学
村上 陸太 竹中工務店

第65期常議員(平成22年6月1日～平成24年5月31日)
黒田 龍二 神戸大学
甲谷 寿史 大阪大学
小林 陽一 安井建築設計事務所
白沢 吉衛 日建設計
鈴木 克彦 京都工芸繊維大学
田路 貴浩 京都大学
田辺 太一 鴻池組

第7期支部監事(平成22年6月1日～平成24年5月31日)
岩下 智 鴻池組
新谷 昭夫 大阪市立住まいのミュージアム

第66期常議員(平成23年6月1日～平成25年5月31日)
浅野 博光 奥村組
上谷 芳昭 京都大学
大西 一嘉 神戸大学
片山 丈士 竹中工務店
桑原 進 大阪大学
嶋崎 敦志 大林組
松島 信一 京都大学防災研究所

第67期常議員(平成24年6月1日～平成26年5月31日)
加賀尾和紀 鴻池組
聲高 裕治 京都大学
佐藤 茂 安井建築設計事務所
田代 靖彦 日建設計
田中 剛 神戸大学
福田 知弘 大阪大学
矢ヶ崎善太郎 京都工芸繊維大学

第8期支部監事(平成24年6月1日～平成26年5月31日)
富山 育子 京都市
山浦 晋弘 安井建築設計事務所

第68期常議員(平成25年6月1日～平成27年5月31日)
飯田 匡 大阪大学
上田 博之 竹中工務店
小椋 大輔 京都大学
北村 潤 東畑建築事務所
徳岡 健夫 奥村組
北後 明彦 神戸大学
渡辺 律夫 大林組

第69期常議員(平成26年6月1日～平成28年5月31日)
大淵 敏行 安井建築設計事務所
角田 暁治 京都工芸繊維大学
小林 広英 京都大学
竹山 聖 京都大学
塚越 治夫 日建設計
榊井 健 関西大学(平成26年8月～)
安野 郷 鴻池組
吉村 智昭 大阪大学(～平成26年7月)

第9期支部監事(平成26年6月1日～平成28年5月31日)
上田 真己 神戸市
服部 晃三 奥村組

第70期常議員(平成27年6月1日～平成29年5月31日)
大谷 真 京都大学
真田 靖士 大阪大学
谷口 徹郎 大阪市立大学
遠山 裕史 奥村組
富島 義幸 京都大学
平川 恭章 竹中工務店
藤井 彰人 大林組

第71期常議員(平成28年6月1日～平成30年5月31日)
秋田 智 安井建築設計事務所
川辺 秀憲 大阪大学
木下 光 関西大学
倉田 真宏 京都大学
笹村 欽也 東畑建築事務所
宮内 靖昌 大阪工業大学
向井 洋一 神戸大学

第10期支部監事(平成28年6月1日～平成30年5月31日)
川野 寿彦 大阪科学技術センター
渡邊 律夫 大林組

第72期常議員(平成29年6月1日～平成31年5月31日)
阪田 弘一 京都工芸繊維大学
島野 幸弘 竹中工務店
竹林 英樹 神戸大学
角田 耕一 大林組
平田 晃久 京都大学
牧 紀男 京都大学防災研究所
松原 茂樹 大阪大学

事務局職員(平成17年以降の在職者)
事務長 児玉 哲也(昭和57年～現在)
主任 森田 早紀(平成16年～現在)
羽尻 育代(平成12年～現在)
坂東 和江(平成15年～現在)

実行委員長挨拶

近畿支部の特徴を活かした創立70周年記念事業の展開

記念事業実行委員会委員長 門内 輝行（第35代支部長、大阪芸術大学教授・京都大学名誉教授）

1947年11月29日に設立された日本建築学会近畿支部は、今年度創立70周年を迎える。この間当支部は、支部会員の自発的で強力な活動に支えられて、学会支部として大きな役割を果たしてきた。その結果、現在、会員数では4,900名を超える規模となっている。この近畿支部の70周年の節目にあたり、過去の歴史を振り返るとともに、建築の未来を創造するために、「関西から考える建築の未来」という統一テーマを掲げて、「創立70周年記念事業」を展開することにしたのである。

近畿支部の特徴とミッション

創立70周年記念事業実行委員会の委員長をお引き受けしたのは、2015～2016年度に近畿支部長を務めたこと、そして節目の記念事業の運営は直前の支部長が担うという支部の慣例によるものであるが、10年前の創立60周年記念事業においても記念シンポジウム実行委員会委員長を拝命し、「進化する関西－建築・都市による地域力の創生」という統一テーマを考案して、5つのシンポジウムの企画運営に携わったことも考え合わせると、近畿支部との運命的な縁を感じざるを得ない。

私は京都大学を卒業後、関東支部（東京大学、早稲田大学）で通算31年間を過ごし、2004年以降は近畿支部（京都大学、大阪芸術大学）で活動していることから、近畿支部の特徴が印象深く感じられる。具体的には、支部のスケールは相当に大きいけれども、それでも全体像が見える範囲にあること、支部が計画・構造・環境、大学・企業・行政といった異なる分野・立場の人々の交流の場となっていることなどがそれである。また支部長在任期間中に、毎月の支部役員会や在阪15建築団体の昼食会・忘年会・新年会などを通じて、濃密な人間関係を構築できたことも貴重な財産である。

このような特徴を持つ近畿支部は、地域の横のつながりを活かして、異なるものの出会いの場となるハブとして機能する可能性を秘めている。このことは、グローバル化が進み、環境・経済・社会・技術等のリスクが増大し、ますます複雑化する社会問題の解決が求められる今日、きわめて重要な意義を有しているといえる。近畿支部を重層するネットワークの結節点として発展させることが、東京への一極集中が進む状況下で、関西を強化するというミッションを果たすことにもつながるのではないかと考えている。

近畿支部創立70周年記念事業の展開

21世紀社会の動向を展望してみると、大量生産・大量消費を基調とした「工業社会」が限界に直面し、生活の質の高さの実現を目指して、環境との共生や人間相互の絆を大切にす「知識社会」を構築することが重要な課題となっていることが分かる。一方で、関西という地域のあり方を省察してみると、豊かな歴史・

文化の蓄積があり、今なお濃密な生命活動やコミュニティがそこかしこに残存していることに気づかされる。それゆえ、こうした固有性を持つ関西を舞台として展開されてきた建築に関する理論と実践からは、21世紀の未来世界を拓く幾多の知見が得られることが大いに期待される。

そこで、近畿支部創立70周年記念事業を推進していくにあたって、「関西から考える建築の未来」という統一テーマを設定して記念事業を実施することにしたのである。これは、「関西を考える」だけではなく、「関西から考える」というスタンスに基づいて、「建築の未来」に関わる情報を世界に向けて発信したいという思いを込めたテーマ設定といえる。

記念事業としては、「記念講演会・記念式典・記念祝賀会の開催」「見学会の開催」「記念シンポジウムの開催」「記念出版物の刊行」「募金活動の推進」を実施する。具体的には、記念講演会として、梅田スカイビルや京都駅を設計された著名な建築家・原広司氏による基調講演、及び同氏と関西を拠点として活躍されている建築家・竹原義二氏、大阪新美術館の設計者に選定された遠藤克彦氏の三氏によるパネルディスカッションを行う。また、日本の気候・風土にあった住宅を追い求めた建築家・藤井厚二の自邸「聴竹居」、学校法人常翔学園100周年記念事業として建設された「大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー」の見学会を開催する。記念シンポジウムとしては、①迫りくる巨大災害リスク、②建築・都市デザインのコンテキストとしてのアジア、③空間の居心地を育む都市・建築・ランドスケープ、④タクティカル・アーバニズム、⑤歴史・文化の持続可能性を支えるデザイン、といった関西が直面する5つの課題を取り上げる。さらに記念出版物として、「日本建築学会近畿支部70年 2007-2017」を刊行する。

ここで注目すべきは、こうした記念事業を推進する活動を通して、関西から建築の未来を展望するだけではなく、会員相互のつながりや支部と社会とのつながりを創出できる点である。記念事業に参画する多様な人々の協働から生み出されるヒューマンネットワークが、関西という地域のポテンシャルを高めるソーシャルキャピタルになるからである。関西にはもともと濃密な人間関係が息づいているが、それが希薄化しつつある今日、その育成・強化は近畿支部の活動における喫緊の課題であると考える。

最後に、記念事業の実施にあたって、募金をされた法人・個人会員、記念講演会や記念シンポジウムの講演者・パネリスト・コーディネータ、見学会にご協力いただいた方々、記念出版物の刊行に尽力された方々、記念行事の会場をご提供いただいた大学・自治体、記念事業実行委員会委員、支部役員・事務局など、お力添えを賜りましたすべての方々に深く感謝申し上げます。

70周年記念事業（講演会・式典・祝賀会・見学会・シンポジウム）

日本建築学会近畿支部創立70周年記念事業

「関西から考える建築の未来」

〈主催〉一般社団法人日本建築学会近畿支部、近畿支部創立70周年記念事業委員会

I．記念講演会

日 時：11月29日（水）14:00～16:30
会 場：大阪工業大学梅田キャンパス 3階 常翔ホール
第1部：基調講演 14:00～14:50
原 広司（原広司+アトリエ・ファイ建築研究所、東京大学名誉教授）
第2部：討論 15:00～16:30
パネリスト：原 広司
竹原義二（無有建築工房、摂南大学教授）
遠藤克彦（遠藤克彦建築研究所）
コーディネータ：門内輝行（大阪芸術大学教授、京都大学名誉教授）
定 員：500名
参加費：無料

II．記念式典

日 時：11月29日（水）16:30～17:00
会 場：大阪工業大学梅田キャンパス 3階 常翔ホール
定 員：300名
参加費：無料

III．記念祝賀会

日 時：11月29日（水）17:30～19:00
会 場：大阪工業大学梅田キャンパス 21階 リストランテ翔21
定 員：100名
会 費：6,000円

IV．見学会

i) 聴竹居
日 時：11月25日（土）10:00, 13:00, 15:00
集 合：聴竹居玄関前
解 説：松隈 章（竹中工務店）
定 員：各20名、合計60名
参加費：1,000円

ii) 大阪工業大学梅田キャンパス OIT 梅田タワー
日 時：11月29日（水）12:30～13:45
集 合：大阪工業大学梅田キャンパス 1階 ギャラリー
解 説：福原和則（大阪工業大学教授）
定 員：30名
参加費：無料



V．記念シンポジウム

第1回「南海トラフ地震による被害と対策－最新の研究成果から考える」
日 時：11月4日（土）13:30～16:30
会 場：海南市民交流センター ふれあいホール
定 員：300名／参加費無料
共 催：海南市
後 援：和歌山県、和歌山県建築士会、和歌山県建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部和歌山地域会
全体進行・趣旨説明：牧 紀男（京都大学防災研究所教授）
基調講演：室崎益輝（兵庫県立大学教授、神戸大学名誉教授）
パネリスト：澤田雅浩（兵庫県立大学准教授）
高橋典之（東北大学准教授）
西野智研（京都大学防災研究所准教授）
コーディネータ：平田隆行（和歌山大学准教授）

第2回「アジアのデザイン－東南アジアの建築・都市デザインから関西を考える」
日 時：11月25日（土）13:00～17:00
会 場：関西大学梅田キャンパス 4階 多目的スペース
定 員：120名／参加費：無料
共 催：関西大学環境都市工学部建築学科
パネリスト：田中 互（日建設計）
宮内智久（a+u副編集長、宮内智久建築都市研究所、シンガポール国立大学上級講師）
芦澤竜一（芦澤竜一建築設計事務所、滋賀県立大学教授）
コーディネータ：木下 光（関西大学教授）
松岡 聡（松岡聡田村裕希、近畿大学教授）

第3回「空間の居心地－都市、建築、ランドスケープにおける心地よい場所について」
日 時：12月2日（土）13:00～17:00
会 場：KIITO デザイン・クリエイティブセンター神戸 3階 303
定 員：100名／参加費無料
基調講演：赤松佳珠子（Cat、法政大学教授）
パネリスト：赤松佳珠子
荻原廣高（ARUP、大阪工業大学客員教授）
末光弘和（SUEP.）、竹林英樹（神戸大学准教授）
コーディネータ：長田直之（ICU、奈良女子大学准教授）
長濱伸貴（E-DESIGN、神戸芸術工科大学教授）

第4回「魅力ある“場”をどう創るか－関西における新たなアーバニズムの可能性をさぐる」
日 時：12月9日（土）13:00～16:30
会 場：大阪工業大学梅田キャンパス 2階 セミナー室204
定 員：100名／参加費：無料
基調講演：出口 敦（東京大学教授）
パネリスト：出口 敦
小池志保子（ウズラゴ、大阪市立大学准教授）
泉山壘威（ソトノバ共同代表理事・編集長、東京大学助教）
コーディネータ：吉村英祐（大阪工業大学教授）

第5回「持続するデザインの教科書－都市、ランドスケープ、建築の知恵に学ぶ」
日 時：12月17日（日）13:30～17:00
会 場：京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス 大学センターホール
定 員：750名／参加費無料
共 催：京都工芸繊維大学
パネリスト：中川 理（京都工芸繊維大学教授）
松隈 章（竹中工務店）
宮城俊作（PLACEMEDIA、放送大学教授）
宮部浩幸（近畿大学准教授）
コーディネータ：倉方俊輔（大阪市立大学准教授）

親子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ」

佐野 春仁（京都建築専門学校）

この教室は1995年の阪神淡路震災をきっかけにして始められたと聞く。神戸、大阪、京都の各都市でそれぞれにユニークな親子体験教室が開かれた。京都らしいものをと、相談を受けて提案したのが、伝統土壁をつくってみようというもので、午前中に竹小舞編み、午後には荒壁塗りを体験し、「ちびっこ親方」なる認定証を授与する。第1回は2003年、思いのほか参加者が集まらず、関係者の子どもたちを招集しての開催であった。毎回10人ほどの参加を積み重ね、今年で15回目、延べ160人ほどになる。ひとえに京都左官技能専修学院の親方および学会委員の先生方と身を惜しまず手伝ってくれた学生たちのおかげである。

当時私は、上京区にある長屋を耐震改修、伝統を学ぶ校舎として整備した折に、伝統の構法、とりわけ耐震、防火、調湿、吸音などに優れる土壁に出会い、惚れ込んだ。いや、惚れ込んだのは、諸々の性能よりも、土、竹や稲藁といった身の回りの素材を使い、しかも繰り返して使えて、細菌の働きでより良い土に作るという、全ては老百姓さんの技術、子どもでもできる、すぐれて「民の技術」である土壁の姿だった。荒壁を塗りつける子どもたちの嬉しそうな顔は、遠くアフリカの砂漠都市ジェネの街を

上げての教会堂を手で泥を塗る大人や子どもたちの表情と同じだ。寝かせた土を塗りあげて住まいをつくる技術は、木や石を組み上げて住まいを構築するのと同様、人間の根っこに最も近い行為といえよう。子どもたちが土に触り、壁をつくる体験を通して、建築技術の根本にある何かを感じてもらえれば、幸いである。



2017年8月19日の教室風景から

親子の都市と建築教室「まちをつくろう」

仙入 洋（遊墨設計）

大阪市立住まい情報センター・日本建築学会近畿支部・大阪府建築士会共催の夏休み恒例企画「親子の都市と建築教室」も今年で18年目を迎えた。段ボールを使って家や建物、まちをつくるワークショップで、学生を含むスタッフみんなで協力し、参加者親子（家族）に家づくりやまちづくりを体験してもらうことにより、身近な住まいや暮らし、まちやコミュニティに対する興味を引き出すことを目指している。

私为本企画に携わったのは2008年からなので、今年で10年になる。2011年に「家をつくろう」から「まちをつくろう」にテーマを拡げ、「自分」だけでなく「みんな」で住まうことに焦点を当てている。7回目の今年はずいぶん地球を飛び出し、「宇宙（ほし）」にまちをつくることになった。

「宇宙（ほし）」という壮大なテーマにもおしげづくことのない子供たちの自由な発想を元に、保護者やスタッフがサポートしながら目に見える形にしていく。最後には、子供たちによる「わがまちプレゼン」を行う。自慢のまちを自分の言葉で説明する姿は、作業に没頭する姿以上に印象的である。

この企画を通じ、都市や建築に日常的に関心を抱いてもらい、将来の建築士を志す子供が現れればうれしい限りである。小学校6年間は親子で、その後はスタッフとして14年間続けて参加し、今や頼れるスタッフとして企画段階からアイデア出しをしてくれる学生の姿を見ていると、我々の意図がしっかり伝わっているのを実感する。可能な限り本企画を継続し、まちや建築に対する思いを継承できればと思っている。



2017年のテーマは「宇宙（ほし）にまちをつくろう」

初の「子ども教育支援建築会議」による大会関連行事開催
「いたい・つくりたい・くらしたい KOBE わたしたちのつくるまち」ー 2014年度大会（近畿）

神吉 紀世子（子ども教育支援建築会議、京都大学）

子ども教育支援建築会議が、学会大会の関連行事を開催するのは2014年度大会（9月12～14日・近畿、大会会場は神戸大学）が最初であった。2013年の12月に開催依頼が学会会長より同会議の近畿支部所属メンバーであった筆者に届き、早々にメンバーで集合し企画を相談した。初開催であることから企画は全くのオリジナルである。大会開催地・神戸ならではのまちづくり活動に関わりをもつように、市内3か所で、子ども主体のワークショップを7月から同時進行実施し、それらの成果が集合するかたちで関連行事そのものを構成することとなった。3か所は、西から順に、長田・駒ヶ林（長田区）、三宮界限（中央区）、深江（東灘区）で、9月15日の当日には、午前は西から順に3か所をめぐるように現地見学会を開催し、引き続き午後には深江での全体会を開催した。全体会には3ヶ所のワークショップ関係者に、支援会議の全国メンバーの方々、学会会長にもご来場いただいた。3ヶ所のワークショップで活躍した子どもたちも出席した。

長田・駒ヶ林では、7月26日、8月21日、同22日にわたって「古民家 & 空き地再生ワークショップ」を行った。旧集落の町並みが残る地区で、スタジオ・カタリスト、NPO 法人芸法、エコール KOBE、神戸市・長田区役所、駒ヶ林まちづくり協議会の協力で、空き家だった長屋をハンディのある生徒たちが学ぶエコール KOBE の「アトリエ KOMA」に改修し、空き地を黒板塗装エリアのある「二葉じぞう広場」に改修した。近隣の複数の高校やエコール KOBE から年長の子どもたちが施工作業に多数参加し、京都・神戸の大学生や大工・左官等の職人さんも協力した。アトリエ KOMA、二葉じぞう広場は、現在も細い路地が魅力の駒ヶ林のまちの中で子どもたちや学生がアート活動などを行う場所として実際に使われている。

三宮界限では、7月21日、8月30日、9月14日にわたって、三宮のまちの立体地図を「お菓子の家」で製作する「子どもがつくる三宮のまち」を開催した。神戸随一の都心での企画は、これまで様々なまちづくりをコーディネートされてきた、ゼンクリエイトにお世話になり、元町・神戸風月堂、スターバックス神戸北野異人館店、KIITO、神戸市「デザイン都市・神戸」担当部局の協力を得つつ、参加者は近畿の小中学生一般公募とした。子どもたちは踏査を踏まえて詳細にデザインにこだわったお菓子の家を丹念に設計・製作した。お菓子の甘い香りは緻密な作業にくつろいで集中できる環境を作ってくれることも発見した。全体会前日に完成した作品はそのまま翌日の展示となった。

深江では、支援会議メンバーの1人である竹中工務店の畑中哲夫氏のコーディネートにより同社の「深江竹友寮」のホールと前庭の空間を利用することになり、7月27日、8月5日、8月22日にわたって前庭にダンボールでオリジナルの秘密基地を製作する「深江パラダイス」を開催した。竹友寮の入寮者の方にもお世話になりつつ、人・まち・住まい研究所、深江まちづくり協議会、PTAの

方々、東灘区役所の協力をいただき、地元の小学生・中学生が参加した。スケール1分の1で建築空間を自由に設計し、たとえ二階建てであっても子どもが実際に乗ることができる十分な強度をもつ構造をいかにダンボールで実現するか大人も一緒に知恵をしばりながら製作に励んだ。全体会での披露の後、しばらく後に「解体・かたづけ」ワークショップを追加で開催したが、その強度を出す工夫が1枚ずつのダンボールの張り合わせ方に現れていたり、一緒に製作しながらも大人に気づかれてない「秘密」の箱やドアを盛り込んで企画主旨を実現していた子どもの主体性に改めて気づいた。

ワークショップの参加者延べ人数は、長田では子ども42人大人58人、三宮界限で子ども25人大人30人、深江で子ども19人大人35人となり、9月15日は「深江竹友寮」のさくらホールを会場とした全体会に約80人が参加、総じて参加者数は約290人となった。全体会では3つの活動報告を行って古谷誠章、宿谷昌則両先生の講評と講義をいただき、子どもがまちづくりの主体として活躍する可能性と大切さを輪になって話あった。話の輪を全国からの展示パネルが見守り、実際のまちづくりと連動して子どもたちの若い力が地域づくりの主力になり得ると大人も学ぶ催しであった。



3つのワークショップ(上図)と全体会(下図)

コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計

向井 洋一 (神戸大学)

日本建築学会近畿支部ならびにグリーンコンクリート研究センターの共催により、「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」をテーマとし、2010年度より2012年度までの3年間にわたり設計競技ならびにこれと関連する連続シンポジウムからなる事業に取り組んだ。近畿支部の常設研究部会である、設計・計画部会、環境工学部会、材料施工部会、木造部会、住宅部会の5つの専門部会を母体として実行委員会が組織され、事業の企画・運営を担った。設計競技の主旨として、2010年度には、これからの住まい、またそれらが集合して形成される地域住環境のあり方を、「コンクリートと木のコラボレーション」、「地球環境と地域社会の持続可能性」という2つの視角から考えることを企画した。2011年度には、いずれも長寿命の建築を実現する材料であるコンクリートと木、相互の特質を生かした住まいや住環境像の新たな展開を求めた。すなわち、次世代の建築デザインや技術開発に大きな可能性を示唆するような専門性を問うこととした。2012年度には、現実の敷地と機能を想定し、コンクリートと木のコラボレーションによる新たな建築デザインの具現化に向けた提案を求め、「サービス付き高齢者集合住宅の設計」を課題とした。

審査は2段階で実施した。提出作品に対する非公開の一次審査により入選作品を選定し、入選者によるプレゼンテーションに対する公開審査会を実施し、各賞を決定した。なお、コンクリート材料の研究において著名であった故二村誠二氏(元大阪工業大学、2010年2月逝去)が本事業企画の実現に尽力されたことを踏まえ、本設計競技では、「最優秀賞」の受賞者には、「二村賞」を授与した。

2010年度設計競技

一次審査(2010年12月17日): 応募作品数は、一般部門が21点、学生部門が52点であった。一般部門から7点、学生部門から10点を入選作品として選定した。
公開審査(2011年1月10日): 一次審査を通過した応募者による作品内容のプレゼンテーションに基づき各賞の受賞者を決めた。一般部門では、最優秀賞1点、優秀賞2点、学生部門では、最優秀賞1点、優秀賞2点を選出した。

2011年度設計競技

一次審査(2012年2月9日): 応募作品数は、一般部門が3点、学生部門が25点であった。一般部門から2点、学生部門から10点を入選作品として選定した。
公開審査(2012年3月10日): 一般部門については、各賞への選出作品はなく、学生部門では、最優秀賞1点、優秀賞3点を選出した。

2012年度設計競技

一次審査(2013年2月9日): 応募作品は57点であった。第3

回設計競技では、一般・学生部門の区分を設けず、18点(一般:16点、学生:2点)を入選作品として選出し、この他に学生特別賞1点を選定した。
公開審査(2013年3月2日): 入選作品18点に対するプレゼンテーションに基づき、最優秀賞1点、優秀賞3点を選出した。

2010年度連続シンポジウム

プレシンポジウム「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」(2010年10月14日)
第1回部会連携シンポジウム「持続可能な都市住宅のあり方を考える」(2011年2月19日)
第2回部会連携シンポジウム「地球環境と持続可能な住まい・地域住環境を考える」(2011年3月4日)
第3回部会連携シンポジウム「コンクリートと木の親和性および持続可能性の技術を考える」(2011年3月22日)

2011年度連続シンポジウム

第1回シンポジウム・都市環境部会「都市環境の視点から持続可能な住まいと地域住環境を考える」(2011年11月19日)
第2回シンポジウム・住宅部会「災害に備える住まい・地域住環境の建築と建築士の役割」(2011年12月2日)
第3回シンポジウム・設計・計画部会『仮設』される社会・空間の『本設化』に関する考察」(2011年12月3日)
第4回シンポジウム・材料・施工部会「コンクリートの耐久性について」(2011年12月6日)
第5回シンポジウム・木造部会「持続可能性に関わる木造建築の役割について考える」(2011年12月16日)

2012年度各部会開催行事での事業総括報告

材料・施工部会「コンクリートと木のコラボレーションによる設計コンペに関する材料・施工部会の報告」(2013年3月25日)
木造部会主催フォーラム「暮らし続ける住まい〜『安心』な居場所づくりを考える」(2013年3月18日)

なお、3年間にわたる本事業の成果として、実行委員会委員・審査委員構成とともに、設計競技の公開審査会での審査経過、入選作品の紹介、ならびに連続シンポジウム概要について、各年度の事業報告書にまとめている。



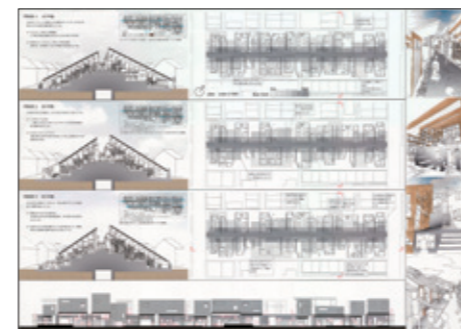
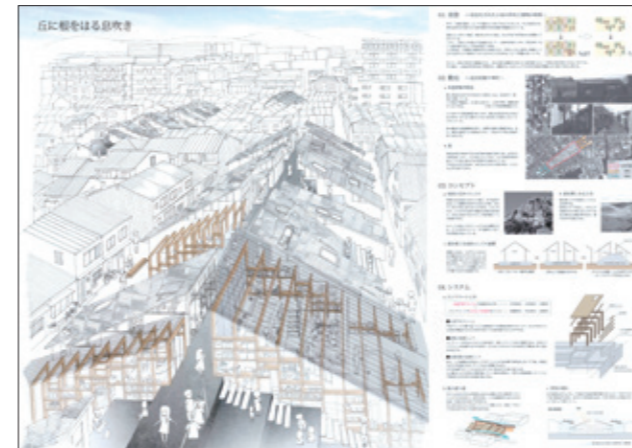
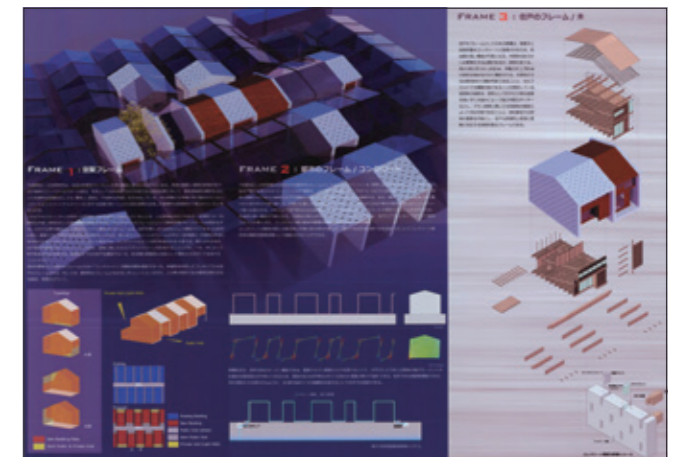
事業報告書(2010年度~2012年度)



2012年度・最優秀賞「繋がる住環境」
矢田朝士 (ATELIER-ASH)



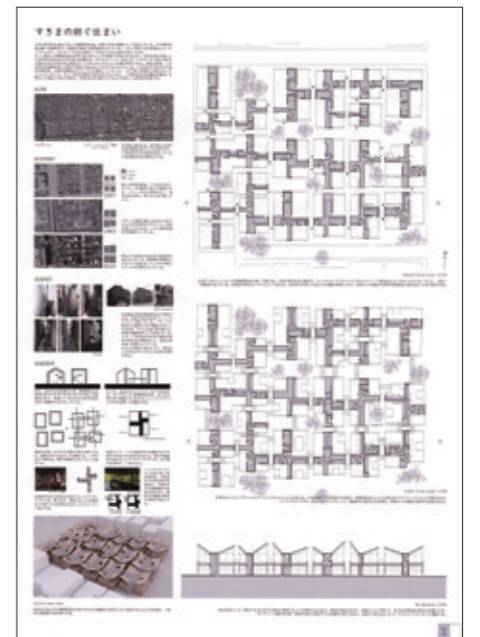
2010年度・最優秀賞(一般部門)「SLOW FRAME」
中川博之・大谷博三・前田達彦・田部充朝・大松俊祐・近藤直人・甲斐淳一・川村明寛・細入万美恵・安藤寿孝(竹中工務店)



2010年度・最優秀賞(学生部門)「丘に根をはる息吹き」
西永大作・岩田友紀・川東大我(神戸大学)



2011年度・最優秀賞(学生部門)「すきまの紡ぐ住まい」
鈴木岳彦(東京大学)



近代建築の保存活用要望活動

笠原 一人（京都市芸繊維大学）

近代建築部会では、歴史的文化的価値の高い近代建築が存続の危機に晒された際、保存活用要望書をまとめ所有者らに提出し、社会に向けて公表する活動を続けている。この10年間で、その頻度は増えている【表】。2007年以前は、1年に1件提出するくらいであったが、2007年から12年までは1年に1件から3件程度に増え、2013年から17年までは1年に4件から6件程度と、さらに増えている。以下、一連の活動から見てくるところを述べておきたい。

まず、保存活用要望書を提出する対象となる建物は、都市部に建つものが多いことが特徴として挙げられる。これは近代建築の多くが都市部に建っていること、都市部では新陳代謝が激しく、経済性や耐震性、機能性の問題を抱えていることから、建て替えられてしまう事例が多いためである。

一方、地方の小都市では、木造の校舎などが残っているという特徴がある。しかしその価値は市民には理解されず、また鉄筋コンクリート信仰が根強いようで、建て替えの危機を迎えるものが目立つ。都市部とは異なる特徴を示している。

戦前・戦後で比べてみると、戦前の建物が18件、戦後の建物が13件となっており（いずれも重複提出含む）、戦後の建物も多い。要望書を提出して保存活用に成功したもので比較すると、戦前の建物は18件中3件（一部保存、進行中は除く）、戦後の建物は13件中0件となっており、戦後の建物が残りにくい傾向がある。

戦後の建物については、高度成長期の建物を中心に耐震性が戦前よりも低いものがあること、いわゆるモダニズム建築が多く、所有者や市民に歴史的文化的価値を認められにくいことなどが原因として考えられる。また戦後建築については未だ『日本近代建築総覧』のようなものが存在せず、学術的な評価が行われていないという問題もある。

公共・民間で比べてみると、公共建築は15件、民間建築は16件となっている。また要望書を提出して保存活用に成功したもので比較すると、公共建築は15件（重複含む）中3件（一部保存、進行中は除く）、民間建築は16件（重複含む）中1件（一部保存、進行中は除く）と、公共建築は比較的残りやすい状況がある。

公共建築の場合、保存活用に向けた市民の声が高まれば、それが反映される可能性が高まるからであろう。一方、民間建築の場合、重要文化財や自治体の指定文化財などになっていない限り、法律で建物を保護することができず、所有者の意のままに解体できること、また経済的な論理が優先されて解体されてしまうケースが多いと考えられる。

保存活用の成功事例に触れておく。高野口小学校は、1937年に竣工した木造校舎で、設計者は和歌山県宮内課（担当：藪本芳一）である【図1】。この小学校は1995年の阪神大震災

提出年月	対象建物	所在地	状況
2007年9月	高野口小学校校舎	橋本市	保存活用
2007年8月	新ダイビル	大阪市	解体済み
2007年8月	大阪新歌舞伎座	大阪市	解体済み
2008年7月	千里ニュータウン南地区センタービル・文化センター	吹田市	解体済み
2008年10月	中林邸	京都市	解体済み
2008年11月	大阪府立総合青少年野外活動センター	能勢町	進行中
2009年1月	旧神戸市立生糸検査所および旧国立神戸生糸検査所	神戸市	保存活用
2011年8月	もと大阪市立精華小学校校舎	大阪市	解体済み
2011年10月	旧西山記念会館	神戸市	解体済み
2011年12月	旧西尻池公会堂	神戸市	解体済み
2012年11月	旧大阪新歌舞伎座	大阪市	解体済み
2013年4月	もと大阪市立精華小学校校舎	大阪市	解体済み
2013年5月	旧ジョネス邸	神戸市	解体済み
2013年7月	京都府立鴨沂高等学校	京都市	一部保存
2013年8月	西脇市立西脇小学校	西脇市	保存活用
2014年1月	旧大阪ガス新開地ガスビル	神戸市	解体済み
2014年5月	大丸心斎橋店	大阪市	一部保存
2014年5月	東大阪市旭町庁舎	東大阪市	解体予定
2014年6月	日本真珠会館	神戸市	進行中
2014年10月	旧塩野義製薬中央研究所	大阪市	解体済み
2015年3月	旧大日本製薬記念館	大阪市	解体済み
2015年5月	京都大学吉田寮	京都市	進行中
2015年7月	加古川市立図書館	加古川市	進行中
2015年7月	宝塚ホテル	宝塚市	解体予定
2015年11月	西脇市民会館・西脇市庁舎	西脇市	進行中
2015年12月	尼崎市庁舎（改修についての要望書）	尼崎市	進行中
2016年1月	大津市庁舎	大津市	進行中
2016年1月	六甲山ホテル旧館	神戸市	保存活用
2016年7月	旧三菱銀行神戸支店	神戸市	一部保存
2016年8月	宮津市庁舎	宮津市	進行中
2016年12月	甲南病院	神戸市	解体予定

2007年以降に近畿支部から提出した保存活用要望書（所有者が変わった場合1つの建物で2回提出している）

をきっかけとして耐震性への危機が高まり、建て替えが決定された。しかしその後、市民や建築関係者らの粘り強い活動によって、改修して活用されることになり、2011年に竣工した。2014年には国の重要文化財に指定されている。

旧神戸市立生糸検査所および旧国立神戸生糸検査所は、1927年と1932年に竣工した鉄筋コンクリート造で、設計者はそれぞれ清水栄二と置塩章である。2つの建物は2008年度末まで農林水産消費技術センターなどの施設として使用されていたが、移転に伴い解体の可能性が出た。そこで神戸市が購入して改修し、2012年からデザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）として活用されている。

西脇小学校は1937年に竣工した木造校舎で、設計者は地元で活躍した内藤克雄である【図3】。耐震性を問題視した西脇市が、2013年に建て替えを発表したが、同窓生や市民が中心となって保存活動を上げた。そうした民意も反映されて、2015年

1月に保存活用することが決定した。現在、神戸大学が中心となって改修計画および設計を進めている。

六甲山ホテルは1929年に竣工した木造で、設計者は古塚正治である【図4】。六甲山の歴史を語るうえで欠かせない重要な建築であったが、耐震性を理由に2015年12月に閉鎖され、存続が危ぶまれていた。しかし2016年8月に八光自動車工業が購入することが発表され、保存活用が決まった。

成功事例に木造建築が目立つが、木造であることが残す動機になりやすかったと考えられる。また2つの木造小学校は解体が決定された後、長い時間をかけてそれが覆されるというプロセスを辿っているが、六甲山ホテルは閉鎖から1年以内で保存活用が決定している。所有者や購入者の意思や決定に大きく左右される民間建築の特徴であろう。

ところで保存活用要望書は、従来「保存要望書」と呼んでいたが、2012年度から「保存活用要望書」に変更した。我々の要望は「完全保存」ではなく、歴史的価値を守りながら改修することを前提としていたが、「保存」という言葉によって「完全保存」を望んでいるような印象を与えてしまっていた。活用が世界的にも大きなテーマとなる中で、活用を促すよう名称を変更した。

また近年は、尼崎市庁舎のように、改修のあり方に関する要望書を提出したものもある。各地で耐震改修が実施される中で、放っておくと、外壁にブレースが並べられるなど歴史的価値が大きく損ねられかねない状況であったため、従来にない種類の要望書を提出したものである。今後、同様のケースが増えると考えられる。

保存活用要望書には日本建築学会が保存活用に向けて「協力」することを明記し、要望書提出の際にもそのように伝えているが、実際に「協力」が実現することは少ないという問題もある。「協力」と言っても様々で、見学会の開催、調査や記録の実施、歴史的文化的価値の評価、耐震の診断および設計、改修計画の策定などが挙げられる。しかし強制力はないため、「協力」というよりは学会からお願いしてかろうじて関わるができる、というのが現実である。多くの場合は、第三者である学会が関わりのを拒む所有者が多い。

保存活用に成功した事例については、学会からの要望書の提出だけによって成功したのではない。市民や関係者の熱心な取り組みや所有者の理解などによってこそ残ったのであり、学会からの要望書はその一部を担うものでしかない。しかし、要望書の提出によって学術的な評価がなされることに意義があり、メディアで紹介されれば人々の関心を高める効果もある。もし該当の建物が解体されてしまったとしても、次の事例の保存活用につながる可能性はある。つまり要望書の提出は、建物の保存活用を実現する環境整備という意味でも必要である。今後とも積極的に活動を続けていく予定である。



図1 高野口小学校



図2 旧神戸市立生糸検査所



図3 西脇小学校



図4 六甲山ホテル

支部活動状況(大会)

2014年度日本建築学会大会(近畿)の報告(会場:神戸大学)

近藤 民代、松下 敬幸(神戸大学)

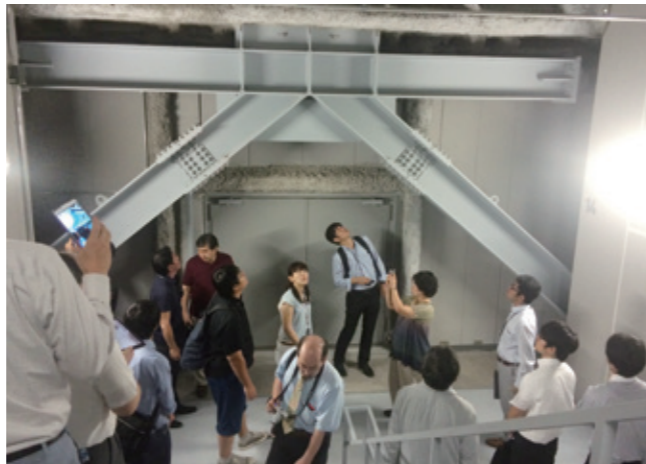
建築学会大会の近畿での開催は9年ごとに巡ってくる。2014年は27年ぶりに神戸大学が会場となった。1995年の阪神・淡路大震災から20年を迎える前で、これまでのご支援への感謝とともに復興の状況を見ていただきつつ、未来につないでいくという視点から「再生 - 未来につなぐ -」をテーマとして掲げた。参加いただく皆様の気持ちよく安全にお迎えするために必要な流れを読みながら、実行委員会の立ち上げから大会当日に至るまで一年以上かけて準備を行った。各種行事は兵庫県、神戸市、建築関係諸団体にも協力を受けて開催した。学術講演会以外の各種行事は下記のような内容で行われた。

記念シンポジウム:神戸大学出光佐三記念六甲台講堂にて開催した記念シンポジウムでは、佐藤滋早稲田大学教授の基調講演「市民まちづくりのこれまでとこれから」をはじめ、神戸市の三つの市民団体の代表者からのまちづくり活動報告、北原啓司弘前大学教授の「本当に必要な復興支援とは」という問題提起が行われた後、三輪康一神戸大学教授の進行により市民まちづくりのあるべき姿および解決すべき問題についての意見交換が行われた。

記念特別講演: JR 新神戸駅近くの会場にて、建築家・安藤忠雄氏の記念特別講演会を行った。安藤氏は「ヴィジョン」という観点から自身の設計活動について話題を提供された。ヴィジョンを描き、不可能に挑戦しながら生み出してきた氏の数々の建築作品が紹介された。また、建築設計だけでなく震災復興の植樹活動などにも積極的に取り組んでいることが話された。参加者は約700人で盛況であった。

近代建築探訪ツアー: 保存活用されている塩屋の近代建築①グッゲンハイム邸、②旧後藤邸、③ジェームス邸の3カ所を見学した。グッゲンハイム邸にて旧後藤邸の設計者設楽貞雄氏についてお孫さんである設楽貞樹氏より解説頂き、塩屋のまちづくりおよびジェームス邸の保存の経緯について森本アリ氏、松隈章氏より伺った。

構造デザイン探訪ツアー(現代建築編): ①あべのハルカス、②中之島フェスティバルタワー、③新・新ダイビル新築工事現場の3ヶ所にて、31名の参加者のもと、構造設計説明を中心とする現場見学会を開催した。①では耐震用の各種ダンパーや建物頂部に設置した居住性改善用のATMDを、また②ではメガトラスや免震層を見学した。③では工事中の躯体や内外装仕上げ状況を見学した。

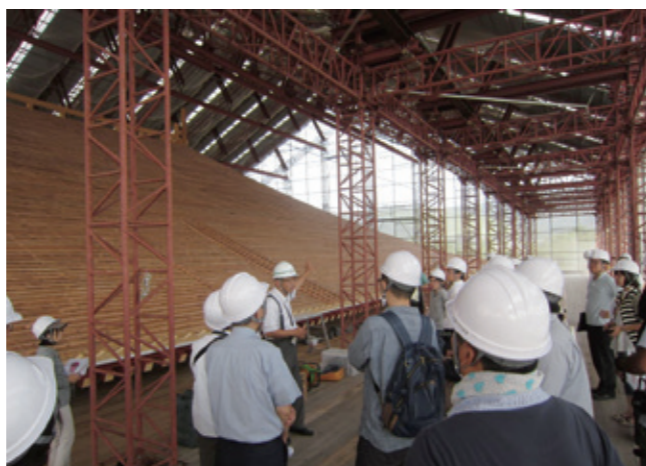


あべのハルカスの構造デザイン探訪ツアー

構造デザイン探訪ツアー(伝統木造編): 興福寺中金堂再建工事の現場見学会を、32名の参加者のもと開催した。構造設計担当者より解説を受けて、現場にて見学を行った。作業所所長に建物の概略から木工事のディテール、材料の調達等多岐にわたる内容について解説していただいた。

特別公開「竹中大工道具館 新常設展」: オープン前の竹中大工道具館の新常設展示を大会参加者へ特別公開して頂いた。新常設展示では大工道具の変遷や大工職人の技術について、映像や体験のブースを通じて、非常にわかりやすく説明された。連日100名を超える大会参加者が訪れた。

大会懇親会: 大会懇親会では神戸大学長、兵庫県副知事、神戸市長、土木学会会長等多くの来賓を迎え、397名の参加者があった。会はビュッフェ形式で行われ、地場料理や特別屋台、利き酒コーナーなどが開設され、学会員が積極的な懇親を行い大盛況であった。



興福寺中金堂再建工事の現場見学会

支部活動状況(表彰事業)

支部研究発表会 発表題数・優秀発表賞受賞者数

年度	発表題数	優秀発表賞受賞者数 ※1
2007年度	446	—
2008年度	434	24
2009年度	436	25
2010年度	456	24
2011年度	431	24
2012年度	445	21
2013年度	462	22
2014年度	467	22
2015年度	471	23
2016年度	442	21
2017年度	420	21

※1 優秀発表賞受賞者

- 1) 目的: 学生の論文発表の意欲を高め、近畿支部研究発表会の活性化を図り、あわせて、プレゼンテーション能力の向上を図るため、優秀発表賞を選定し表彰する。
- 2) 対象: 研究発表申込時に、修士・博士の学位を持たない学生もしくは研究生で、研究発表申込時点で審査を希望したもの、または発表会当日に審査を希望したもの。論文発表プレゼンテーション(発表態度・内容の理解・発表の工夫・質疑応答等)を対象とする。

支部主催設計競技

近畿地区卒業設計コンクール

年度	応募締切	応募・入選点数	大学の部	短大・高専・専修学校の部	工業高校の部
2007年度	2007年3月30日	応募	29	13	3
		入選	3	3	1
2008年度	2008年3月31日	応募	29	9	4
		入選	3	3	1
2009年度	2009年3月31日	応募	27	10	2
		入選	3	3	0
2010年度	2010年3月31日	応募	28	8	2
		入選	3	3	1
2011年度	2011年3月31日	応募	27	5	2
		入選	3	3	1
2012年度	2012年3月29日	応募	25	11	9
		入選	3	3	3
2013年度	2013年3月28日	応募	26	13	4
		入選	3	3	1
2014年度	2014年3月28日	応募	25	14	7
		入選	3	3	1
2015年度	2015年3月30日	応募	20	19	5
		入選	3	3	2
2016年度	2016年3月30日	応募	23	14	8
		入選	3	3	3
2017年度	2017年3月30日	応募	28	11	3
		入選	3	3	1

日本建築学会近畿支部、グリーンコンクリート研究センター共催

コンクリートと木のコラボレーション設計競技

年度	応募締切	応募・入選点数	一般部門	学生部門
2010年度	2010年11月26日	応募	21	52
		入選	7	10
2011年度	2012年1月27日	応募	3	25
		入選	2	10
2012年度	2013年1月31日	応募	57	—
		入選	19	—

作品選集

年度	応募数	掲載数	作品選集新人賞 ※2
2007年度	43	15	—
2008年度	52	18	—
2009年度	54	19	—
2010年度	53	19	—
2011年度	43	15	—
2012年度	62	18	—
2013年度	44	10	5件5名
2014年度	47	18	3件4名
2015年度	74	18	1件2名
2016年度	69	15	3件4名
2017年度	70	19	—

※2 新人賞(作品)受賞者

近畿支部では、若手支部会員の作品発表を奨励し支部活動の活性化のために、2013年度より「新人賞(作品)」を創設した。支部推薦した作品の中で、応募年の4月1日時点で40歳未満の筆頭設計者を表彰する。

支部共通事業設計競技

年度	応募数	支部入選
2007年度	64	14
2008年度	57	12
2009年度	56	13
2010年度	76	15
2011年度	65	14
2012年度	75	16
2013年度	60	13
2014年度	45	10
2015年度	40	9
2016年度	44	10
2017年度	61	14

支部活動状況（部会活動）構造・材料系

材料・施工部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	二村 誠二	56	13	「環境共生」を基本テーマとして活動したコンクリートのポンプ圧送性に関する研究鉄筋コンクリート造建築物のひび割れ対策	559
20年	二村 誠二	60	15	「環境共生」を基本テーマとして活動したコンクリートのポンプ圧送性に関する研究鉄筋コンクリート造建築物のひび割れ対策	703
21年	岩清水 隆	86	10	21年度も「環境共生」を基本テーマとして活動したコンクリートのポンプ圧送性に関する研究鉄筋コンクリート造建築物の補修マニュアル作成	755
22年	岩清水 隆	87	9	鉄筋コンクリート造建築物の補修マニュアル作成コンクリートのポンプ圧送性に関する研究 着中コンクリートの性状に関する研究	460
23年	岩清水 隆	91	7	コンクリートのポンプ圧送性に関する研究鉄筋コンクリート造建築物のひび割れ対策マニュアル性能規定編 着中コンクリートの性状に関する研究	508
24年	中村 成春	91	11	コンクリートのポンプ圧送性に関する研究 フライアッシュコンクリートの性状に関する研究 着中コンクリートの性状に関する研究	592
25年	中村 成春	98	15	コンクリートのポンプ圧送性に関する研究 フライアッシュコンクリートの性状に関する研究 着中コンクリートの性状に関する研究	524
26年	中村 成春	95	15	コンクリートのポンプ圧送性に関する研究 着中コンクリートの性状に関する研究 フライアッシュコンクリートの性状に関する研究 収縮ひび割れ及び中性化の性能設計支援ツールに関する研究	420
27年	中村 成春	99	13	コンクリートのポンプ圧送性に関する研究 着中コンクリートの性状に関する研究 フライアッシュコンクリートの性状に関する研究 収縮ひび割れ及び中性化の性能設計支援ツールに関する研究	503
28年	中村 成春	99	18	コンクリートのポンプ圧送性に関する研究 鋼スラグ細骨材の建築用コンクリートへの適用性に関する研究 コンクリート工学計算ツールに関する研究	878
29年	中村 成春	99	－	コンクリートのポンプ圧送性に関する研究 鋼スラグ細骨材の建築用コンクリートへの適用性に関する研究 コンクリート工学計算ツールに関する研究	－

基礎構造部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	高帯 喜文	68	10	基礎杭の支持力機構（鋼管杭、拡張工法）大阪層群の地質工学、最新の基礎に関わる研究 液状化地盤、杭の水平抵抗	265
20年	棚橋 秀光	68	10	基礎杭の支持力機構や沈下、施工記録とトラブル対策 基礎工法の見学、最新の基礎設計法に関わる研究 建物と基礎・地盤の相互作用、杭の水平抵抗	252
21年	棚橋 秀光	65	12	基礎、杭の鉛直支持力機構と沈下、水平抵抗 大阪地盤の地質工学に関わる調査・研究 最新の基礎設計法に関する研究	342
22年	松尾 雅夫	66	18	兵庫県南部地震の地震被害者からみた基礎構造の耐震設計・施工上の留意点 建築基礎構造に関する理論・設計ならびに施工事例等についての研究 地盤の地質工学的特性に関わる調査・研究	377
23年	松尾 雅夫	68	10	東北地方太平洋沖地震における建物被害と液状化被害について 建築基礎構造に関する理論・設計ならびに施工事例等についての研究 地盤の地質工学的特性に関わる調査・研究	281
24年	本田 周二	70	10	東北地方太平洋沖地震における建物被害と液状化被害について 建築基礎構造に関する理論・設計ならびに施工事例等についての研究 地盤の地質工学的特性に関わる調査・研究	292
25年	本田 周二	67	10	東北地方太平洋沖地震における建物被害と液状化被害 杭を中心とした建築基礎構造に関わる理論・設計・施工事例 地盤に関する土質工学および地形地質工学に立った評価技術の研究	282
26年	佐竹 啓一	67	22	浦安の液状化被害の特徴と甚大化原因 建物と地盤基礎の重量比、剛性比による耐震設計、耐震診断評価 関西地方における液状化被害の実態と対策工法	436
27年	佐竹 啓一	72	11	鋼管杭協会・COPITAにおける最近の動向 阿倍野ルカスの基礎工事 格子状浅層地盤改良の支持力発現メカニズムの実証的検証	465
28年	細野 久幸	68	10	建築基礎構造設計指針の動向についての報告 「基礎くい工事問題」への諸機関の対応と問題点の整理 上部構造とのバランスを考えた杭基礎耐震設計法	330
29年	細野 久幸	68	－	建築基礎構造に関わる新しい工法・計測技術、設計法に関する研究 地盤・基礎に関わる調査技術、評価法の研究 建築基礎構造に関する技術、知見の継承	－

構造力学部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	竹脇 出	53	2	新材料・新構法を用いた制震技術 地盤と建物の相互作用に関する新しい話題	53
20年	竹脇 出	53	2	構造物の崩壊解析－その理論と実際－ 建築構造設計におけるリダンダンシーとロバストネスの果たす役割	68
21年	竹脇 出	50	2	構造デザインと力学原理 構造と地震リスク	59
22年	小坂 郁夫	50	7	免震、耐震設計法に関する近年の話題 各種新材料・混合構法を用いた建築構造	63
23年	小坂 郁夫	50	2	建築構造設計に係わる問題－構造物の破壊挙動と構造解析モデル－ 木造建築物の現状と可能性	66
24年	小坂 郁夫	50	2	構造設計理論と実務設計－構造解析プログラムと応答解析シミュレーション 地震時建物解析と応答性状に関する最近の話題	76

鉄骨構造部会

25年	谷口与史也	50	2	木質構造の最新の研究と実施設計例 建築構造デザイナーの設計シーズ ー発想から展開までー	206
26年	谷口与史也	53	2	大規模・大次元の構造解析手法と構造設計 超弾性体材料の現状と展望	78
27年	谷口与史也	53	1	構造力学の過去・現在・未来	56
28年	辻 聖晃	54	2	構造力学における新しいニーズとシーズ 若手研究者からの構造力学への挑戦状	46
29年	辻 聖晃	54	－	既存超高層建物・免震建物の長周期地震動対策 機械学習と構造力学	－

鉄骨構造部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	吹田啓一郎	101	2	長周期地震動に対する鋼構造建物の耐震性 鉄骨構造の新しい利用を切り拓く (仮称) 新大阪EMビル新築工事現場見学	115
20年	田中 剛	101	2	長周期地震動に対する鋼構造建物の耐震性 建築分野での超高強度鋼の適用の現状と技術課題 (仮称) 土佐塩ダイヤビル新築工事現場見学	87
21年	田中 剛	108	3	建築合成構造 ー温故知新と今後の展望ー 制震設計の現状・技術課題・実施例 (仮称) 肥後橋MIDビル現場見学会	141
22年	田中 剛	108	3	建築鋼構造に関する最新の研究事例 接合部研究の動向と今後の展開 1000N/mm級鋼を用いた鋼構造建築の現場見学会	64
23年	田中 剛	108	2	2011年東北地方太平洋沖地震・鉄骨造建物の被害調査報告 大阪駅北地区先行開発区域プロジェクト/Aプロットの現場見学会	98
24年	桑原 進	108	3	住友金属工業和歌山製鉄所高炉建設現場見学会 研究会「脚元から始めよう～柱脚の現在と将来～」 シンポジウム「近畿で想定される超大地震に備える」	174
25年	桑原 進	108	3	研究会「鋼構造関連の国際基準の最新動向と海外での実施適用事例」、研究会「鋼部材の局部座屈挙動を捉えて設計に活かす」 現場見学「新・新ダイヤビル（仮称）新築工事」	99
26年	桑原 進	107	3	研究会「来るべき大地震にそなえて～鋼構造骨組の耐震補強～」 研究会「Eディフェンスを利用した鋼構造耐震性能評価（仮称）」 工場見学「佐々木製罐工業 伊丹工場」	119
27年	桑原 進	107	3	研究会「鉄骨梁の横座屈挙動ー最先端の研究成果と設計への応用」、研究会「耐火構造に関する最新の研究」 現場見学「吹田市立スタジアム」	117
28年	多賀 謙蔵	109	3	研究会「鋼構造における床スラブの役割」、研究会「鋼構造の累積損傷評価と対策に関する最新の動向」 現場見学「大阪商工信用金庫新本店ビル」	118
29年	多賀 謙蔵	109	－	建築鋼構造の設計・施工技術に関する最近の動向調査 建築鋼構造の安全性と機能性向上のための最新の研究動向調査 現場見学	－

鉄筋コンクリート構造部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	中塚 信	48	5	改正建築基準法施行に伴う技術基準等に関する研究 実施工物件の紹介を通じた実務者と研究者間相互の情報交換	36
20年	中塚 信	47	8	改正建築基準法施行に伴う技術基準等に関する研究 実施工物件の紹介を通じた実務者と研究者間相互の情報交換	185
21年	西山 峰広	46	2	静的荷重増分解析を利用した建築物の地震応答評価法に関する研究 非構造壁および開口のある壁の剛性と耐力評価に関する研究	13
22年	西山 峰広	49	3	2010年版「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」を読み解く 非構造壁および開口のある壁の剛性と耐力評価に関する研究	92
23年	西山 峰広	49	2	2010年版鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説を読み解く 開口のある壁の剛性と耐力評価に関する研究	134
25年	倉本 洋	49	2	鉄筋コンクリート造建物の構造解析精度の向上に関する研究	36
26年	倉本 洋	47	6	鉄筋コンクリート造建物の構造解析精度の向上に関する研究	91
27年	倉本 洋	47	5	鉄筋コンクリート造建物の構造解析精度の向上に関する研究	87
28年	倉本 洋	49	2	鉄筋コンクリート造建物の構造解析精度の向上に関する研究	79
29年	阿波野昌幸	49	－	鉄筋コンクリート造建物の構造解析精度の向上に関する研究	－

耐震構造研究部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	林 康裕	57	8	大阪を襲う内陸地震に対して建物はどう耐震設計すればよいか 既存杭基礎の再利用を考える	155
20年	林 康裕	57	5	上町断層帯による想定地震動に対する建物の耐震設計を考える	250
21年	林 康裕	57	5	内陸地震に対して構造設計者はどう対応すればよいか？	230
22年	林 康裕	57	6	内陸地震に対する設計用地震荷重の提案	97
23年	大西 良広	34	3	内陸地震に対する耐震対策 海溝型地震に対する耐震対策	83
25年	林 康裕	35	1	想定を超える地震・地震動に対する建築物の応答と今後の耐震設計	156
26年	林 康裕	35	2	兵庫県南部地震から20年 何を学び、どう耐震設計に反映するか？	167
27年	林 康裕	39	1	大阪市域の大振幅予測地地震動と今後の耐震設計	128
28年	林 康裕	21	1	シンポジウム「熊本地震の被害経験を関西の被害軽減促進に如何に繋げるか？」	149
29年	林 康裕	21	－	内陸地殻内地震に対する建築物の応答と耐震設計法	－

材料・施工部会のこの10年の歩み

岩清水 隆（竹中工務店）

基礎構造部会：これからの飛躍のために

細野 久幸（SDネットワーク）

材料・施工部会は右表に示す様に活発な活動を行ってきた。中でも、2004年に発足したポンプ工法WGは、2007年までに第4回圧送技術研究会を開催し、2017年には第13回圧送研究会を開催している。行われたWGの回数は175回、日本建築学会大会への論文の投稿数は計154編となっている。今後も、さらに実大レベルの圧送実験を行い、その成果を発信していく予定である。

基礎構造部会：これからの飛躍のために

細野 久幸（SDネットワーク）

基礎構造部会：これからの飛躍のために

細野 久幸（SDネットワーク）

基礎構造部会は1976年（昭和51年）に構造系部会として設置され、建築基礎構造についての理論・実験報告、設計・施工事例等に関する研究活動を行っている。年間10回の部会を開催し、テーマごとに専門の講師、会員をお招きし、発表だけでなく討論を交わすことで部会としての技術・技能を高めている。今日までに培ってきた技術や近畿支部基礎構造部会としての人との繋がりを継承するために、近年は若手会員の入会に力を入

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

年	種類	内容
2007～2017	研究発表会	第4回～第13回圧送技術研究会
2008	シンポジウム	鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ対策マニュアル
2010	シンポジウム	着中コンクリート工事に関する技術の現状とその対策
2011	シンポジウム	コンクリートと木の親和性および持続可能性の技術を考える
2011	シンポジウム	鉄筋コンクリート構造物のコンクリート補修マニュアル
2011	シンポジウム	大阪広域生コンクリート協同組合での技術的課題への取組み
2011	シンポジウム	連続シンポジウム「コンクリートの耐久性について」
2013	講習会	着中コンクリート工事における対策マニュアル
2014	シンポジウム	フライアッシュ使用コンクリートの特性に関する調査研究
2016～	研究委員会	鋼スラグ細骨材の建築用コンクリートへの適用性に関する研究
2017	シンポジウム	着中コンクリート工事における対策と取組みの現状

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

基礎構造部会：これからの飛躍のために

支部活動状況(部会活動) 環境系

環境工学部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成19年	河井 康人	126	3	第6回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第9回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第6巻	166
20年	鉾井 修一	131	3	第7回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第10回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第7巻	139
21年	鉾井 修一	131	3	第8回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第11回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第8巻	138
22年	相良 和伸	143	3	第9回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第12回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第9巻	149
23年	相良 和伸	142	3	第10回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第13回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第10巻	240
24年	高橋 大武	145	3	第11回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第14回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第11巻	148
25年	高橋 大武	145	3	第12回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第15回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第12巻	177
26年	井上 容子	145	3	第13回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第16回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第13巻	154
27年	井上 容子	144	3	第14回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第17回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第14巻	163
28年	松下 敬幸	147	3	第15回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第18回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第15巻	173
29年	松下 敬幸	147	—	第16回近畿支部建築環境工学若手研究者交流研究発表会 第19回近畿環境工学シンポジウム 建築環境工学ベテランズシリーズ第16巻	—

光環境部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成19年	井川 憲男	65	6	太陽放射と昼光・UV等の関係に関する研究 離散指向光束ベクトルによる光の流れの可視化に関する研究 順応輝度増加量の方位性と加法性	179
20年	井川 憲男	65	6	太陽放射と昼光・UV等の関係に関する研究 離散指向光束ベクトルによる光の流れの可視化に関する研究 順応輝度増加量の方位性と加法性	130
21年	井川 憲男	65	7	天空輝度分布のモデル化に関する研究 立体形状の見え方評価法に関する研究 光の流れの制御に関する研究	199
22年	土井 正	65	4	薄明視測光技術の実環境への適用 歩行者のための屋外照明の要件 素材の反射・透過特性に関する研究	301
23年	土井 正	65	5	安全・安心のための屋外照明の要件と関連照明基準との整合 薄明視測光技術の実環境への適用 環境構成材料の反射・透過特性に関する研究	150
24年	土井 正	65	2	LED照明が視環境に及ぼす影響 薄明視測光技術の実環境への適用 安全・安心のための屋外照明基準と関連照明基準との整合	57
25年	土井 正	65	3	省エネルギー時代の光・視環境のありかたと新光源の動向 薄明視測光技術の実環境への適用 安全・安心のための屋外照明基準と関連照明基準との整合	73
26年	土井 正	65	1	LED照明が視環境に及ぼす影響 薄明視測光技術の実環境への適用 安全・安心のための屋外照明基準と関連照明基準との整合	25
27年	原 直也	50	6	空間の明るさ感に関する研究 薄明視測光技術の視環境設計に関する研究 安全・安心のための照明に関する研究	161
28年	原 直也	80	5	省エネルギー照明に関する研究 空間の明るさ感に関する研究 色彩の知覚効果に関する研究	178
29年	原 直也	80	—	昼光照明に関する研究 色彩の知覚効果に関する研究 空間に対する心理評価に関する研究	—

音環境部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成19年	高橋 大武	22	1	室内音場の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 音環境の測定と調査分析・評価	80
20年	阪上 公博	22	1	室内音場の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と調査分析・評価	27
21年	阪上 公博	50	2	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	70
22年	阪上 公博	22	5	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	93
23年	堀之内吉成	21	2	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	47
24年	堀之内吉成	21	2	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	74

25年	堀之内吉成	21	1	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	27
26年	堀之内吉成	21	1	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	23
27年	堀之内吉成	21	1	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	11
28年	堀之内吉成	21	1	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	9
29年	佐藤 逸人	21	—	室内音場・音響材料の解析及び評価 振動・騒音の予測と評価及び制御 各種建築・都市空間の音環境の測定と評価	—

熱環境部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成19年	岩前 篤	47	6	都市ヒートアイランドの実態、影響、緩和対策	194
20年	岩前 篤	47	8	都市ヒートアイランドの実態、影響、緩和対策 屋内温熱環境と健康の関連性調査	130
21年	岩前 篤	50	2	屋内温熱環境と健康の関連性調査	68
22年	岩前 篤	50	2	屋内温熱環境と健康の関連性調査	15
24年	岩前 篤	50	2	屋内温熱環境と健康の関連性調査	45
25年	岩前 篤	50	1	屋内温熱環境と健康の関連性調査	20
26年	岩前 篤	50	1	屋内温熱環境と健康の関連性調査	11
27年	岩前 篤	50	1	屋内温熱環境と健康の関連性調査	18
28年	岩前 篤	50	1	屋内温熱環境と健康の関連性調査	22
29年	岩前 篤	50	—	屋内温熱環境と健康の関連性調査	—

空気環境部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成19年	山中 俊夫	34	4	アスベスト問題の現状と課題 シックハウス問題・化学物質過敏症の現状	90
20年	山中 俊夫	43	5	アスベスト問題の現状と課題 各研究機関における空気環境研究の動向調査	91
21年	山中 俊夫	43	5	家具の化学物質対策に関する現状と課題 住宅の換気基準・計算手法に関する現状と課題 各研究機関における空気環境研究の動向調査	107
22年	山中 俊夫	43	8	公共建築の改修の実態と空気環境 関西の住宅における自然換気による24時間換気の代替に関する研究	67
23年	山中 俊夫	45	5	関西の住宅における自然換気による24時間換気の代替に関する研究 各研究機関における空気環境研究の動向	83
24年	山中 俊夫	45	4	国内外各種法令等における換気・空気質基準の調査研究 各研究機関における空気環境研究の動向	52
25年	山中 俊夫	45	6	国内外各種法令等における換気・空気質基準の調査研究 各研究機関における空気環境研究の動向	139
26年	山中 俊夫	47	7	国内外各種法令等における換気・空気質基準の調査研究 関西の住宅における空気質・換気問題についての調査 微粒子汚染に関する調査研究	83
27年	山中 俊夫	45	7	国内外各種法令等における換気・空気質基準の調査研究 微粒子による空気汚染に関する調査研究 若手技術者・若手研究者による空気調和関連設備の調査研究(U40小部会)	110
28年	山中 俊夫	45	7	建築空気環境と健康被害及びその防止方法に関する研究 国内外各種法令等における換気・空気質基準の調査研究 若手技術者・若手研究者による空気調和関連設備の調査研究(U40小部会)	122
29年	山中 俊夫	45	—	微粒子をはじめとする建築空気環境と健康被害及びその防止方法に関する研究 室内空気環境と知的生産性に関する調査研究 若手技術者・若手研究者による空気調和関連設備の調査研究(U40小部会)	—

都市環境部会 ※平成21年度より新設

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成21年	吉田 篤正	10	6	都市のヒートアイランドの実態、影響、緩和対策	38
22年	吉田 篤正	9	2	大阪のヒートアイランドの実態把握に関する研究	53
23年	鍋島美奈子	9	3	大阪のヒートアイランドの実態把握と改善策に関する研究 ヒートアイランド対策技術に関する調査研究 コンクリートと木のコンベ連続シンポジウムの企画と開催	34
24年	鍋島美奈子	9	3	大阪のヒートアイランドの実態把握と改善策に関する研究 ヒートアイランド対策技術に関する調査研究	48
25年	鍋島美奈子	9	2	大阪のヒートアイランドの実態把握と改善策に関する研究 ヒートアイランド対策(緩和策・適応策)技術に関する調査研究	21
26年	鍋島美奈子	9	2	大阪のヒートアイランドの実態把握と改善策に関する研究 ヒートアイランド対策(緩和策・適応策)技術に関する調査研究	22
27年	鍋島美奈子	9	2	大阪のヒートアイランドの実態把握と改善策に関する研究 ヒートアイランド対策(緩和策・適応策)技術に関する調査研究	43
28年	宮崎ひろ志	10	4	大阪のヒートアイランドの実態把握と改善策に関する研究 ヒートアイランド対策技術の開発、評価に関する研究 都市環境シンポジウムの開催	109
29年	宮崎ひろ志	10	—	大阪のヒートアイランドの実態把握と改善策に関する研究 ヒートアイランド対策(緩和策・適応策)技術に関する調査研究 都市環境シンポジウムの開催	—

ここ10年の環境工学部会の活動について

藤田 浩司(近畿大学)

環境工学部会では、光環境部会、音環境部会、熱環境部会、空気環境部会、都市環境部会と連携し、部会員間の相互啓発と学術的交流の推進を目的とした取り組みを実施している。その取り組みとしては、支部研究発表会後の懇親会、主に修士課程の学生に研究成果を発表いただき互いに交流を深めていただく建築環境工学若手研究者研究発表・交流会、博士号取得前後の方に研究成果をご講演いただく近畿環境工学シンポジウム、ベテランの先生にご自身の研究についてご講演いただく建築環境工学研究ベテランズシリーズを毎年開催している。近畿環境工学シンポジウムは1999年度より、建築環境工学若手研究者研究発表・交流会と建築環境工学研究ベテランズシリーズは2002年度より現在に至るまで継続的に開催されている。

支部研究発表会後の懇親会は、例年、学生や教員など合わせて100名前後の参加者で開催され、その約6~7割が学生である。学生は、普段はあまり交わることのない他大学や専門分野の異なる学生や教員と交流を持つことができ、互いに刺激を与えあう機会となっている。

建築環境工学若手研究者研究発表・交流会は、主に修士課程の学生の相互啓発と交流を趣旨として、修士課程の学生によるショートプレゼンテーションとポスターセッションの2部構成で開催されている。例年20件前後の発表と、100名前後の参加があり、ポスターセッションでは他分野の教員からの質問も受けることで学生が様々な視点から自身の研究を見つめ直す機会となっている。また、教員などによる投票で選出するプレゼン賞を設けており、学生のプレゼン向上にも寄与している。

近畿環境工学シンポジウムは、関西地域における建築環境工学研究の継続的発展を期待して、主に博士号取得前後の研究者2~3名にそれぞれ30分~60分の時間でご講演いただくかたちで開催されている。ここでは、他大学の同分野の教員・研究者などとの質の高い議論が行われ、互いの研究を深く発展させる機会となっている。2005年以降は、上記の建築環境工学若手研究者研究発表・交流会と同日に開催されており、修士課程の学生が博士課程相当の研究に触れ刺激を受ける機会にもなっている。

建築環境工学研究ベテランズシリーズは、ベテランの先生にご自身の長年の研究についてレビュー形式でじっくりと時間をかけてお話しいただくかたちで開催されている。ここでは、その研究内容はもちろん、先生方が長年の研究生活で築かれた研究に対する考え方なども語られ、専門分野を問わず若手や中堅研究者への大きな刺激となっている。

このように環境工学部会では、学生からベテランの先生まで、光、音、熱、空気、都市環境それぞれの研究者がそれぞれの研究を発表し、互いにレビューしあい、また刺激を与えあう機会が充実しており、今後のさらなる発展が期待される。



近畿支部研究発表会後の懇親会



建築環境工学若手研究者研究発表・交流会



近畿環境工学シンポジウム

支部活動状況（部会活動）計画系

設計・計画部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成21年	木多 道宏	58	2	サステナブルエリアデザインとそのしくみに関する研究	28
22年	木多 道宏	58	3	サステナブルエリアデザインとそのしくみに関する研究「関西のサステナブルエリアデザイン」(仮)の出版に向けた調査	27
23年	木多 道宏	58	3	サステナブルエリアデザインとそのしくみに関する研究「関西のサステナブルエリアデザイン」(仮)の出版に向けた調査	163
24年	木多 道宏	58	2	サステナブルエリアデザインとそのしくみに関する研究「西日本大震災」に備えた、集落・都市における地域文脈の継承に関する研究	148
25年	川窪 広明	58	2	サステナブルエリアデザインとそのしくみに関する研究 南海トラフ地震に備えた事前の「復興計画」に関する研究	26
26年	川窪 広明	58	1	サステナブルエリアデザインとそのしくみに関する研究 南海トラフ地震に備えた事前の「復興計画」に関する研究 東アジアにおける日式住宅リノベーションに関する研究	42
27年	川窪 広明	3	1	サステナブルエリアデザインとそのしくみに関する研究 南海トラフ地震に備えた事前の「復興計画」に関する研究	47
29年	藤本 幹也	3	—	ユニバーサルデザインの役割と今後の取り組みについて考える災害時における災害弱者支援の必要性と地域で進める防災対策に関する研究	—

農村計画部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	重村 力	24	1	植民都市と北海道殖民	20
20年	重村 力	17	1	集落と建築設計：関西の沿岸集落調査から考える	30
21年	本多 友常	17	1	農村と大学の地域連携 その2 近畿の農村計画研究事情 その1、その2	25
22年	本多 友常	17	2	集落調査の方法<人と場所と方法> 風、集落、集団による形成された社会構造を背景として生まれる多様な住まいのかたち	29
23年	本多 友常	17	1	中山間地域の自律と可能性	20
24年	本多 友常	17	2	生活の豊かさとその持続性	18
25年	本多 友常	17	1	地域ビジョン構築の可能性	14
26年	山崎 寿一	20	1	歴史的集落の創造的保全／近畿の集落プラットフォームアジアからの集落的計画デザイン原理	37
27年	山崎 寿一	21	1	設計科学としての集落研究／アジアの建築・集落デザイン	12
28年	山崎 寿一	21	2	設計科学としての集落研究／アジアの建築・集落デザイン	16
29年	山崎 寿一	21	—	集落・建築デザインと地域性／日韓の建築・地域デザイン	—

都市計画部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	三輪 康一	85	11	地域に密着した都市計画・まちづくり教育の実態と展望に関する研究 地域防災に関する研究	132
20年	小浦 久子	85	9	地域に密着した都市計画・まちづくり教育の実態と展望に関する研究 地域防災に関する研究	126
21年	小浦 久子	68	6	都市計画・地域づくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	68
22年	嘉名 光市	68	2	都市計画・地域づくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	18
23年	嘉名 光市	68	5	都市計画・都市デザイン・まちづくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	79
24年	嘉名 光市	68	4	都市計画・都市デザイン・まちづくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	85
25年	嘉名 光市	68	5	都市計画・都市デザイン・まちづくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	71
26年	木下 光	68	3	都市計画・都市デザイン・まちづくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	57
27年	木下 光	59	2	都市計画・都市デザイン・まちづくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	80
28年	川口 将武	58	1	都市計画・都市デザイン・まちづくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	71
29年	川口 将武	58	—	都市計画・都市デザイン・まちづくりに関する研究／地域防災に関する研究(継続)	—

住宅部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	多治見左近	30	2	住宅政策の展望と課題 居住環境と省エネルギー	14
21年	檜谷美恵子	30	1	居住サポートシステム 自治体住宅政策と住まいづくり支援の仕組み	100
22年	檜谷美恵子	30	2	住まいづくり支援における公共、NPO等の役割について 住宅困窮者支援のあり方について 住まいづくり支援と住教育	15
23年	高田 光雄	30	1	持続可能な住まいと地域環境の計画 住まいづくり支援と住教育 地域居住政策と居住再生	23
24年	高田 光雄	30	3	地域居住政策と住情報機能の役割 住まいづくり支援と住教育 持続可能な住まいと地域環境の計画	275
25年	高田 光雄	30	2	地域居住政策と住情報機能の役割 住まいづくり支援と住教育 持続可能な住まいと地域環境の計画	335
26年	高田 光雄	30	1	地域居住政策と住情報機能の役割 住まいづくり支援と住教育 持続可能な住まいと地域環境の計画	25
27年	高田 光雄	30	1	地域居住政策と住情報機能の役割 住まいづくり支援と住教育 持続可能な住まいと地域環境の計画	114
28年	高田 光雄	32	1	地域居住政策と住情報機能の役割 住まいづくり支援と住情報・住教育 持続可能な住まいと地域環境の計画	11
29年	高田 光雄	32	—	少子高齢化社会に対応した子育て支援住環境システム 住まいづくり支援と住情報・住教育 地域居住政策と住情報機能の役割	—

建築史部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	川本 重雄	43	1	日本住宅史の再検討	47
21年	矢ヶ崎善太郎	43	1	茶室研究再考／古建築の修復と耐震補強	10
22年	矢ヶ崎善太郎	43	2	近代和風建築調査の意義と今後／古建築を復原することの社会的意義	15
28年	野村 正晴	2	1	日本の建築空間と境界	10
29年	鈴木 智大	2	—	日本の建築空間と境界(継続)	—

民家部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	御船 達雄	44	1	重要文化財「旧中筋家住宅」保存修理現場の見学会	7
20年	御船 達雄	45	1	重要文化財山口家住宅修理現場の小見学会	10
21年	御船 達雄	42	3	民家移築の実態研究／近代民家建築における普請の諸相 和歌山県広川町広の歴史的町並み見学会	23
22年	御船 達雄	42	8	民家移築の実態研究	23
23年	御船 達雄	42	1	近世町家建築の特徴と変容（橋本火伏医院主屋を事例にして）	15
29年	丸山 俊明	42	—	地方における神宮寺のあり方について	—

環境保全部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	鈴木 克彦	33	1	地域コミュニティによる都市環境の保全手法に関する研究 都市景観の持続的保全手法に関する研究 住宅団地の持続的再生手法に関する研究	180
20年	三好 庸隆	33	4	公開研究会を主体に「なぜ日本の住環境はいつまでも美しくならないのか」をテーマに活動した 美しい住環境形成における建築協定の有効性、まちづくり条例の現状と課題	32
21年	三好 庸隆	33	6	公開研究会「なぜ日本の住環境はいつまでも美しくならないのか」をテーマに公開研究会を継承／美しい住環境形成における建築協定の有効性／まちづくり条例の現状と課題	34
22年	三好 庸隆	33	3	H22年度も「なぜ日本の住環境はいつまでも美しくならないのか」をテーマに公開研究会を継承／美しい住環境形成における建築協定の有効性／まちづくり条例の現状と課題	46
23年	三好 庸隆	33	1	メインテーマ「わが国における住環境」／テーマに関連する公開研究会の開催／テーマに関連する見学会の開催	11
29年	八木 康夫	33	—	わが国における「都市住環境」をメインテーマに毎回テーマ設定を行い、第一人者をゲストスピーカーに招き、公開研究会を開催するテーマに関連した見学会を開催する	—

近代建築部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	橋寺 知子	57	5	文化財としてのモダニズム建築の実証的研究ー関西を中心として 近代建築の戦後の変容に関する研究 歴史的建築の保存・活用の実例検証	36
20年	橋寺 知子	57	5	文化財としてのモダニズム建築の実証的研究ー関西を中心として 近代建築の戦後の変容に関する研究 関西の戦後建築に関する基礎的研究ー現状把握と分析	103
21年	橋寺 知子	57	2	関西の戦後建築に関する基礎的研究ー暫定リストの充実と分析 文化財としてのモダニズム建築の実証的研究ー関西を中心として(継続) 近代建築の戦後の変容に関する研究(継続)	60
22年	橋寺 知子	57	6	文化財としてのモダニズム建築の実証的研究ー関西を中心として 関西の戦後建築に関する研究ーその特徴と意義	80
23年	橋寺 知子	57	3	文化財としてのモダニズム建築の実証的研究ー関西を中心として 関西の戦後建築に関する研究ーその特徴と意義	63
24年	笠原 一人	57	1	文化財としてのモダニズム建築の実証的研究ー関西を中心として 建築遺産としての戦後建築	30
25年	笠原 一人	57	6	文化財としてのモダニズム建築の実証的研究ー関西を中心として 建築遺産としての戦後建築／近代建築保存活用要望書の提出	53
26年	笠原 一人	55	3	戦後建築保存の諸問題／建築資料保存の諸問題	52
27年	笠原 一人	55	2	近代建築保存の諸問題／関西戦後建築総覧の作成	60
28年	笠原 一人	55	5	近代建築の保存活用に向けた調査、研究、要望書の作成 関西戦後建築総覧の作成／建築資料保存の問題の検討	44
29年	笠原 一人	55	—	近代建築の保存活用に向けた調査、研究、要望書の作成 関西戦後建築総覧の作成／建築資料保存の問題の検討	—

建築論部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加延人数
平成19年	末包 伸吾	72	1	近代・現代建築における建築理論に関する研究	31
20年	末包 伸吾	96	1	近代・現代建築における建築理論に関する研究	35
21年	本田 昌昭	96	2	近代・現代建築における建築理論に関する研究	36
22年	本田 昌昭	96	3	近代・現代建築における建築理論に関する研究	59
23年	松本 裕	101	3	近代・現代の建築・都市に関する理論研究 建築論・都市論再考／建築論・都市論研究分野における若手研究者の育成	25
24年	松本 裕	101	3	近代・現代の建築・都市に関する理論研究 建築論・都市論再考／建築論・都市論研究分野における若手研究者の育成	85
25年	中江 研	101	4	近代・現代の建築・都市に関する理論研究 建築論・都市論再考／建築論・都市論研究分野における若手研究者の育成	135
26年	中江 研	105	3	近代・現代の建築・都市に関する理論研究 建築論・都市論再考／建築論・都市論研究分野における若手研究者の育成	77
27年	西田 雅嗣	106	3	近代・現代の建築・都市に関する理論研究 建築論・都市論再考／建築論・都市論研究分野における若手研究者の育成	83
28年	西田 雅嗣	106	1	近代・現代の建築・都市に関する理論研究 建築論・都市論再考／建築論・都市論研究分野における若手研究者の育成	17
29年	朽木 順綱	106	—	近代・現代の建築・都市に関する理論研究 建築論・都市論再考／建築論・都市論研究分野における若手研究者の育成	—

都市計画部会 アーバン・デザイン甲子園 –「アーバン・デザインとは何か」を問い続ける–

川口 将武 (大阪産業大学)

大学・大学院における都市計画・まちづくりに関わる演習や実践はこのところ盛んになり、様々な試行が続いている。しかし、卒業設計等において、アーバン・デザイン的な提案・作品は学内審査会で評価が分かれる。単体の作品としての評価が、審査側の価値基準に委ねられているのだ。社会全般においても、何がしかの者がソフトなまちづくりを提案しても、リアリティを持ってまちを変化させる効果が見込まれるか、適用の可否を判断する術は容易ではない。こうしたアーバン・デザインをとりまく状況の中、近畿支部都市計画部会「アーバン・デザイン甲子園(以後、UD甲子園)」は、2017年度で第8回の開催を迎える。

UD甲子園の特徴は作品のスタイルに制約がなく、対象地やテーマ等も存在しない自由度の高さにある。それが故に、これまでの応募校は近畿圏の約20大学の、建築・都市計画系はもとより、住居系・ランドスケープ系・社会政策系等、幅広い分野からの参加が見られる。

毎年約20作品の応募がある中で、作品のレベルは年々高くなっている。二次審査に残る9つのアーバン・デザインに顕著なのは、各大学の教育的な特徴や社会的な時代の潮流を反映した作品が増えていることだ。例えば、建築と都市のスケール

の空間的提案を同時に行い、間をつなぐためのアクティビティや仕組みをも提案する作品や、詳細なりサーチを基に地域課題解決に向けた実験的なまちづくり実践活動やそのツール・アイデア提案などユニークな作品も登場するようになっている。また、発表会での実務家審査員からの長く濃密な時に厳しい講評・ディスカッションとそのやりとりを記録集にまとめることは、応募者が自らの提案を深く見つめ直し、自分なりの都市に対する視点、視野、視座を知る機会となり、成長を促すものとなる。

「アーバン・デザインとは何か？」を問い続けること、そして、新たな都市の方法論を探る場として「UD甲子園」は、より多くの多様な大学の参加、活発な交流が生まれる場としてこれからも在り続けられるよう継続していきたい。



二次審査会での講評・ディスカッション

近代建築部会建築文化週間見学会

橋寺 知子 (関西大学)

毎年開催される建築文化週間では、近畿支部の行事として、近代建築部会が企画を担当し、近代建築見学会を開催している。関西には明治以降の近代建築が比較的多く現存しており、また地域や時代の特色を発揮した印象深いものが多い。この10年間の見学先を改めて見てみると、格式高い様式建築もあれば、初期モダニズム建築、戦後建築もあり、関西の近代建築の多様性がよく表れているように思う。文化財に指定・登録され、「建築的価値」を認められたものもあれば、ジェームス邸のように改修工事を経て、新たな用途で使い続けられる建築も訪れている。近代建築を保存するには、再生方法や活用方法をセットで考え、論じなければ難しい。見学会はその現状を知る機会でもある。

近年は、日本建築学会近畿支部から保存要望書を提出した建築を取り上げる企画が続いている。旧大阪市立精華小学校のように、残念ながら最後の見学会となったものもあるが、設計者や関係者の解説とともに、さまざまな分野の建築の専門家を中心とする参加者が、実際に現地を訪れ、それぞれの観点から意見を述べることで、建築の価値が再確認され、保存・活用

の糸口を探る有意義な場でもある。特に戦後建築の場合、所有者や管理者の方々に文化財的な意識はなく、「ごく普通の建物」であって、特に意識されていないことが多い。見学会を通して、参加者＝第三者の意見、建物への「熱い眼差し」に触れることが、所有者・管理者自身の建物への認識を変えざるきっかけになることもある。所有者・管理者のご協力を得ながら、これからも日本建築学会近畿支部ならではの、ディープな近代建築見学会が企画できればと思う。

2007年度～2016年度の近代建築見学会見学先一覧

年度	見学先	備考
2007	綿業会館	国重要文化財
2008	旧小西家住宅(旧小西儀助商店)	国重要文化財
2009	ダイヤビル本館(旧大阪ビルディング)	保存要望書提出
2010	大阪府庁舎	—
2011	旧大阪市立精華小学校	現存せず
2012	京都市考古資料館(旧西陣博物館)・本野精吾自邸	京都市登録文化財
2013	ジェームス邸	神戸市指定文化財
2014	東大阪市旭町庁舎(旧枚岡市庁舎)	保存要望書提出
2015	西脇小学校・西脇市民会館	保存要望書提出
2016	大津市庁舎・旧大津公会堂	保存要望書提出

支部活動状況（部会活動）横断領域

防災計画部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成19年	田中 啓義	28	10	煙制御の考え方の作成、整理 用途別防災計画の考え方の作成	62
20年	田中 啓義	21	9	煙制御設計法についての検討、成果発表 用途別防災計画についての検討	117
21年	田中 啓義	21	12	防災計画についての検討、報告書の作成 煙制御設計法についての検討	81
22年	田中 啓義	21	6	防災計画についての検討 煙制御設計法についての検討	85
23年	田中 啓義	21	10	防災計画についての検討 煙制御設計法についての検討	69
24年	田中 啓義	11	6	防災計画についての検討 煙制御設計法についての検討	40
25年	田中 啓義	11	9	防災計画についての検討 煙制御設計法についての検討	62
26年	田中 啓義	12	9	防災計画についての検討 煙制御設計法についての検討	55
27年	田中 啓義	11	8	防災計画についての検討	60
28年	田中 啓義	13	8	防災計画についての検討	41
29年	田中 啓義	13	—	防災計画についての検討	—

建築経済部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成20年	藤本 佳子	18	7	ニュータウンの計画と課題 建築物の用途変更に関する研究	58
21年	藤本 佳子	18	6	建物の再生事例 集合住宅の再生	38
22年	藤本 佳子	18	4	建物の用途変更	67
23年	藤本 佳子	18	13	建物の用途変更	87
24年	藤本 佳子	21	16	建物の用途変更	184
25年	藤本 佳子	21	8	建物の用途変更 マンション建物の寿命に関する研究	33
26年	藤本 佳子	22	11	マンション建物の寿命に関する研究 建物の用途変更	55
27年	藤本 佳子	21	10	マンション建物の寿命に関する研究 建物の用途変更 管理不全マンション問題	51
28年	木内 龍彦	21	7	マンション建物の寿命に関する研究 建物の用途変更	35
29年	木内 龍彦	21	—	マンションの建替え問題 マンション建物の寿命 管理不全マンション問題	—

情報システム部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成19年	吉川 眞	27	2	都市・建築分野における情報技術の活用について (京都大学桂キャンパスの見学、建築社会システム分野の研究事例について)	30
20年	谷 明熱	27	1	都市・建築分野における情報技術の活用について CAD / CG、GISなどのアプリケーションについて 知的システム、設計生産システムなどについて	4
21年	谷 明熱	27	1	都市・建築分野における情報技術の活用について 知的システム、CAD / CG、GISなどについて	38
22年	谷 明熱	27	2	都市・建築分野における情報技術の活用について 知的システム、CAD / CG、GISなどについて	15
23年	谷 明熱	28	1	都市・建築分野における情報技術の活用について 知的システム、CAD / CG、GISなどについて	27
24年	谷 明熱	28	1	都市・建築分野における情報技術の活用について 知的システム、GIS、設計支援システムなどについて	13
25年	谷 明熱	27	1	最新の建築や空間情報技術に関する研究会	25
29年	谷 明熱	27	—	最新の建築や空間情報技術に関する研究会	—

木造部会

年度	主査	部員数	開催数	部会活動報告	参加 延人数
平成19年	鈴木 祥之	57	2	木構造の解析・実験的解明 木造建築物の設計法 安心、安全で長持ちする家造り	22
20年	鈴木 祥之	57	6	木構造の解析・実験的解明 木造建築物の設計法 安心、安全で長持ちする家造り	61
21年	鈴木 祥之	57	2	木構造の解析・実験的解明 木造建築物の設計法 安心、安全で長持ちする家造り	30
22年	鈴木 祥之	57	2	木構造の解析・実験的解明 木造建築物の設計法 安心、安全で長持ちする家造り	15
23年	鈴木 祥之	57	1	木造の耐震要素（土壁）の性能 木造建築物の実験・解析と設計法 木造建築物の持続可能性について	16
24年	中治 弘行	57	1	木造建築の性能設計法について 木造建築物の力学的検証 木造建築の維持管理と住生活・住環境	11
25年	中治 弘行	57	2	木造建築の性能規定型設計法に関する研究 木造建築の維持管理について 実務設計者の視点から見た木造建物の設計について	16
27年	中治 弘行	58	6	伝統的構法木造建物の構造設計法に関する研究 木材のめり込み挙動に関する研究 木造建築の防災・維持管理について	65
28年	向井 洋一	12	4	木造建築物のモニタリングと構造評価に関する研究 木造建築物の構造解析、構造実験に関する研究 木材のかん合、接合部の材料力学的研究	140
29年	向井 洋一	12	—	歴伝統的構法木造建物の構造特性と耐震性能に関する研究 木材のめり込み挙動とそれを考慮した設計法に関する研究 木造建築の耐久性・維持管理に関する研究	—

防災計画部会20年の活動報告

久次米 真美子（日建設計）

防災計画部会は、1997年神戸大学名誉教授室崎益輝先生を中心に発足、その後主査を引き継がれた京都大学名誉教授田中啓義先生のもと20年に渡り活動を行ってきた。ほぼ月1回ペースの研究会は本年度中には第200回を迎える。

大学研究者とともに民間の防災設計者が集まり、様々な視点から情報交換や研究を重ね、報告書作成やセミナー開催など広く活動アピールを行ってきた点が特徴的であろう。

【第1期】加圧煙制御の計算法の提案（～1999年頃）

実務の防災・設備設計者とともに、報告書「加圧煙制御システムの給気量の算定方法」をまとめた。本報告書はその後の加圧煙制御設計の考え方の参考として度々用いられている。

木造部会の10年

中治 弘行（公立鳥取環境大学）

日本建築学会近畿支部に木造部会が設置されたのは平成13年度である。設置当初は、阪神・淡路大震災での木造被害を教訓として、木造建物を構造力学、耐震工学の観点から見直し、新世代の木構造を再構築することを主な活動目標として、『伝統構法を生かす木造耐震設計マニュアル』の刊行等で一定の成果を上げた。平成20～24年度に設けられた「伝統的構法の設計法作成及び性能検証実験」検討委員会に、木造部会からも研究者等が参画し、伝統的構法木造建物の構造設計について、進展に貢献してきた。平成25年度以降は、伝統構法にこだわらず、広く木質構造についての研究、教育、社会貢献を意識した活動にも

建築経済部会：ストック再生活用のための手法 ー用途変更の課題を解決する

藤本 佳子（千里金蘭大学 名誉教授）

この10年間の特色ある活動は、1984年「建築の修復と再生に関する調査研究」、1986年「建築の用途変更に関する調査研究」の支部研究助成に引き続き、「用途変更事例の追跡調査による建築・社会経済活性化に関する一考察」で2011年度・2012年度の日本建築学会研究助成をいただいたことである。報告書として、「用途変更自営の追跡調査による建築物の長期利用実態と活用方法」と事例の写真及び図面等をDVDで作成した。報告会&シンポジウム「ストック再生活用のための手法ー用途変更の課題を解決するー」を開催し130人の参加を得た。その後「マンションの管理不全、老朽化、終焉問題」に取り組んでいる。

【第2期】火災性状の簡易予測法の提案（～2001年頃）

火災性状予測をプログラムに頼るのではなく電卓やエクセルで算定できる簡易法をまとめた。設計者が実務で扱える画期的な本として注目され、今般本部にて内容拡充のうえ「火災性状予測計算ハンドブック」として近々出版の予定である。

【第3期】排煙設備技術指針の改定版（～2011年頃）

1987年版「排煙設備技術指針」に法令改正や技術の進展を盛り込み報告書をまとめた。その後本書も本部に引き継がれて内容拡充のうえ新指針として2014年に販売された。

本部会は現在、新メンバーを中心に第4期を迎え、防災計画に関する報告書を近くまとめる運びとなっている。

重点をおくようにしている。

平成26年度には神戸大学で学会大会が開催されるのにあわせて「構造デザイン探訪ツアー伝統木造編」を木造部会で担当して、興福寺中金堂復元工事現場の見学等を行った。東日本大震災等、大規模地震では部会として木造建物の被害調査に赴くことも多く、平成28年熊本地震では、被害調査で木造建物の悉皆調査を行った報告会を8月12日に開催した。

平成27年度からは部会全体での勉強会を開催している。そこでは、大学院生を含めて若手研究者による研究報告をメインにすることで、若い構成員を少しでも増やす努力を続けている。



報告書の表紙



報告会 & シンポジウムのチラシ

支部活動状況（支部活動）

会員数

年度	個人会員	法人会員	準会員	賛助会員	年度末合計
2007年度	4,693	119	106	30	4,948
2008年度	4,750	111	87	29	4,977
2009年度	4,704	107	98	30	4,939
2010年度	4,713	89	140	27	4,969
2011年度	4,730	90	102	26	4,948
2012年度	4,718	92	127	24	4,961
2013年度	4,718	87	132	24	4,961
2014年度	4,731	86	108	24	4,949
2015年度	4,722	87	119	23	4,951
2016年度	4,820	86	100	23	5,029
2017年度	—	—	—	—	—

支部通常総会

年度	期日	会場	出席者数
2007年度	5.25	大阪科学技術センター	182名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成18年度（第61回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2006年度支部共通事業設計競技課題「近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生」支部入選者表彰・作品展示
- 2007年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会
 - 江副 敏史氏：「兵庫県立芸術文化センター」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2008年度	5.22	大阪科学技術センター	231名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成19年度（第62回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2007年度支部共通事業設計競技課題「人口減少時代のマイタウンの再生」支部入選者表彰・作品展示
- 2008年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会
 - 森 雅章氏：「京都市本能特別養護老人ホーム・京都市立堀川高等学校本館学舎」
 - 岡本 隆氏：「総合地球環境学研究所」
 - 赤木 隆氏：「龍谷大学大宮図書館」
 - 遠藤 秀平氏：「Gravitecture 大阪城」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2009年度	5.22	大阪科学技術センター	170名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成20年度（第63回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2008年度支部共通事業設計競技課題「記憶の器」支部入選者表彰・作品展示
- 2009年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会
 - 江副 敏史氏：「大阪弁護士会館」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2010年度	5.25	大阪科学技術センター	162名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成21年度（第64回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2009年度支部共通事業設計競技課題「アーバン・フィジックスの構想」支部入選者表彰・作品展示
- 2010年日本建築学会文化賞受賞記念講演会
 - 福武総一郎氏：「近代化産業遺産の『建築・現代アート・環境』をテーマにした保存・再生とその運営」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2011年度	5.25	大阪科学技術センター	202名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成22年度（第65回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2010年度支部共通事業設計競技課題「大きな自然に呼応する建築」支部入選者表彰・作品展示

- 2011年日本建築学会大賞受賞記念講演会
 - 岡田 光正氏：「規模計画・安全計画・建築人間工学の確立と発展に関する一連の功績」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2012年度	5.24	大阪科学技術センター	228名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成23年度（第66回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2011年度支部共通事業設計競技課題「時を編む建築」支部入選者表彰・作品展示
- 2012年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会
 - 坂本 昭氏：「加古川のオフィス」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2013年度	5.23	大阪科学技術センター	165名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成24年度（第67回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2012年度支部共通事業設計競技課題「あたりまえのまち／かけがえのないもの」支部入選者表彰・作品展示
- 2013年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会
 - 前田 圭介氏：「アトリエ・ビスドール」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2014年度	5.23	大阪科学技術センター	194名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成25年度（第68回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2013年度支部共通事業設計競技課題「新しい建築は境界を乗り越えようとするところに現象する」支部入選者表彰・作品展示
- 2014年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会
 - 中西 正佳氏：「神戸国際中学校・高等学校河野記念 アルモニホール」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2015年度	5.25	大阪科学技術センター	195名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成26年度（第69回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2014年度支部共通事業設計競技課題「建築のいのち」支部入選者表彰・作品展示
- 2015年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会
 - 白波瀧智幸氏：「大阪木材仲買会館」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2016年度	5.25	大阪科学技術センター	159名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成27年度（第70回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2015年度支部共通事業設計競技課題「もう一つのまち・もう一つの建築」支部入選者表彰・作品展示
- 2016年日本建築学会文化賞受賞記念講演会
 - 白幡洋三郎氏：「造園史と比較都市文化研究に関わる一連の著作を通じた我が国の環境文化の啓発」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

年度	期日	会場	出席者数
2017年度	5.24	大阪科学技術センター	168名（委任状含）

総会と同時開催付随行事

- 平成28年度（第71回）近畿地区大学、短大・高専・専修学校、高校建築系学科卒業設計コンクール入選者表彰・作品展示
- 2016年度支部共通事業設計競技課題「残余空間に発見する建築」支部入選者表彰・作品展示
- 2017年日本建築学会大賞受賞記念講演会
 - 楳崎 正也氏：「室内空気浄化・換気設計に関する研究と空気環境教育による社会への貢献」
- 当支部長期法人・賛助会員への感謝状贈呈式
- 懇親会

支部活動状況（支部主催 講演会・シンポジウム）

平成19（2007）年度

3月14日（金） シンポジウム「法改正は建築文化の変革をもたらすか」

平成20（2008）年度

12月16日（火） 第9回講演会「建築紛争の現状と課題（その2）－大阪地方裁判所における建築裁判から－」

平成21（2009）年度

2月1日（月） 21世紀前半の大阪を震う地震被害－南海トラフでの地震と上町断層地震－（本部・支部共催）

平成22（2010）年度

6月23日（水） シンポジウム「暑中コンクリート工事に関する技術の現状と夏期対策－大阪広域生コンクリート協同組合での凝結試験結果を中心として－」

10月14日（木） 2010年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」プレシンポジウム「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」

2月19日（土） 2010年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第1回 部会連携シンポジウム「持続可能な都市住宅地のあり方を考える」

3月4日（金） 2010年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第2回 部会連携シンポジウム「地球環境と持続可能な住まい・地域住環境を考える」

3月22日（火） 2010年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第3回部会連携シンポジウム「コンクリートと木の親和性および持続可能性の技術を考える」

平成23（2011）年度

7月8日（金） 技術報告会2011「大阪広域生コンクリート協同組合での技術的課題への最近の取組みについて－暑中コン実機実験・スラッジ水を用いたコンクリートの性状など－」

10月24日（月） 建築・都市の低炭素化実現に向けた連続シンポジウム 第3回 建築関連分野の温暖化対策アクションプラン策定に向けて「関西の温暖化対策と低炭素化の実現」

11月19日（土） 2011年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第1回シンポジウム 都市環境部会「都市環境の視点から持続可能な住まいと地域住環境を考える」

12月2日（金） 2011年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第2回シンポジウム 住宅部会「災害に備える住まい・地域住環境の構築と建築士の役割」

12月3日（土） 2011年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第3回シンポジウム 設計・計画部会「「仮設」される社会・空間の「本設化」に関する考察」

12月6日（火） 2011年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第4回シンポジウム 材料・施工部会「コンクリートの耐久性について」

12月7日（水） 第12回講演会「建築紛争の現状と課題（その3）－大阪地方裁判所における建築裁判から－」

12月16日（金） 2011年度「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」第5回シンポジウム 木造部会「持続可能性に関わる木造建築の役割について考える」

平成24（2012）年度

7月27日（金） 報告会 & シンポジウム「ストック再生活用のための手法－用途変更の課題を解決する－」

7月30日（月） 技術報告会2012「大阪広域生コンクリート協同組合での技術的課題への取組み」

12月15日（土） 千里ニュータウン50周年 シンポジウム「地域の価値を再創造するマネジメントビジネスの構想」

3月18日（月） シンポジウム「近畿で想定される超大地震に備える－鋼構造分野の取組－」

平成25（2013）年度

5月27日（月） 技術報告会2013「暑中コンクリート工事における対策マニュアル」

1月27日（月） シンポジウム「建築構造デザイナーの設計シーズ－発想から展開まで－」（第57回構造力学コロキウム）

平成26（2014）年度

7月2日（水） 技術報告会2014「フライアッシュおよび回収骨材を使用したコンクリートに関する技術的取組み」

平成27（2015）年度

4月20日（月） シンポジウム「環境が形態を決める－建築・エンジニアリングデザインの最前線－」

12月3日（木） 第16回講演会「建築紛争の現状と課題（その4）－大阪地方裁判所における建築裁判から－」

3月11日（金） シンポジウム「デジタル・コンストラクション－BIM 施工革新の展望－」

平成28（2016）年度

5月10日（火） ロームシアター京都 見学会・シンポジウム「モダニズム建築の保存改修について考える」

3月15日（水） シンポジウム「持続可能社会のための住まいのデザインビジョン－シェアリングエコノミーの視点から－」

3月17日（金） シンポジウム「暑中コンクリート工事における対策と取組みの現状」

平成29（2017）年度

11月30日（木） 第18回講演会「建築紛争の現状と課題（その5）－大阪地方裁判所における建築裁判から－」



平成28(2016)年度 見学会・シンポジウム



平成28(2016)年度 シンポジウム



平成23(2011)年度講演会「建築紛争の現状と課題(その3)」



平成27(2015)年度シンポジウム「環境が形態を決める」



2010年本会文化賞受賞記念講演会(講師：福武総一郎氏)

支部活動状況（委員会、部会主催 講演会・シンポジウム）

平成 19 (2007) 年度

5月	25日(金)	2007年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会「兵庫県立芸術文化センター」
7月	28日(土)	
8月	4日(土)	親と子の都市と建築教室「家をつくろう(第7回ワークショップ)」
	5日(日)	
	25日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第5回)」
6月	30日(土)	第1回空気環境シンポジウム「住まいのエコ・トータルプラン～安全・健康な住まいを考える」
7月	13日(金)	講演会「ここまて出来る`持続可能な生き方`一人の解放のために」
9月	28日(金)	在阪建築14団体新年交流会50周年記念「友好と交流の集いーけんちく名曲コンサート」
	29日(土)	西武庫田地再生シンポジウム「蘇る中古団地の住戸(学生による自主改修を通して)」
10月	13日(土)	第44回構造力学コロキウム「新材料・新構法を用いた免制震技術」
	30日(火)	第4回圧送技術研究会「コンクリートポンプ圧送性評価手法」
11月	9日(金)	第9回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究者研究発表・交流会
	10日(月)	第1回都市計画・まちづくり若手交流会「若手の手がき～研究者編～」
12月	15日(土)	シンポジウム「日本の住様式～復殿造から書院造へ」
2月	9日(土)	第86回講演会「ミニス・ファン・デル・ローエのモニタージュとその空間表現、II「村野藤吾の設計プロセス」
	27日(水)	第2回都市計画・まちづくり若手交流会「若手の手がき～実務者編～」
	6日(木)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第六巻「見えやすさを測る試み+α」
	10日(月)	シンポジウム「大阪を襲う内陸地震に対して建物をどう耐震設計すればよいか？」
3月	11日(火)	公開研究会「渡り鳥の色光に対する反応」
	15日(土)	第45回構造力学コロキウム「地盤と建物の相互作用に関する新しい話題」
	17日(月)	公開研究会「植民都市と北海道殖民」

平成 20 (2008) 年度

5月	22日(木)	2008年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会「京都市本能特別養護老人ホーム・京都市立堀川高等学校本館学会」、「総合地球環境学研究所」、「龍谷大学大宮図書館」、「Gravitecture 大阪城」
8月	2日(土)	
	9日(土)	親と子の都市と建築教室「家をつくろう(第8回ワークショップ)」
	10日(日)	
	23日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第6回)」
5月	20日(火)	シンポジウム「建築物の煙制御設計」
	4日(水)	シンポジウム「鉄筋コンクリート造建築物の取組ひび割れ対策マニュアル」
6月	28日(土)	講演会「水都・大阪のモダン建築を活かした街づくり」
		第4回都市環境シンポジウム「緑と風のヒートアイランド対策」
8月	21日(木)	第1回公開研究会「美しい住環境形成に建築協会はこれまで有効か」
9月	17日(水)	公開研究会「CG シミュレーションを用いた空間デザイン」
10月	21日(火)	第2回公開研究会「まちづくり条例の現状と課題」
	4日(火)	第10回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究者研究発表・交流会
	7日(金)	ワークショップ「今後の地震荷重の展望と主要検討課題」 コロキウム「構造設計における RC 非構造壁の実務的取り扱い手法」
11月	8日(土)	第87回建築論部会講演会「アルド・ファウ、アイクの建築・都市思想ー図式の解読を通して、」 「フランク・ロイド・ライトの建築思想ーその構造」
	15日(土)	第2回空気環境シンポジウム「建物におけるアスベスト問題の現状と課題」 第46回構造力学コロキウム「構造物の崩壊解析ーその理論と実際」
	17日(月)	第5回圧送技術研究会「生コンクリートによるポンプ圧送性評価」
1月	8日(木)	シンポジウム「上町新層帯による想定地震動に対する建物の耐震設計を考える」
	24日(土)	講演会「社会に広がる建築の仕事」
	26日(月)	第3回公開研究会「美しい集住環境創造に何がかけているか」 公開研究会「農村と大学の地域連携」
2月	21日(土)	第47回構造力学コロキウム「建築構造設計におけるリダンダンシーとロバストネスの果たす役割」
	6日(金)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第七巻「私が歩んだ熱環境と設備システムの世界」
3月	9日(金)	公開研究会「光：すべての存在を支えるもの」
	26日(木)	第4回公開研究会「まちづくりの視点からみた京都市新景観政策の一評価」

平成 21 (2009) 年度

5月	22日(金)	2009年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会「大阪弁護士会館」
	1日(土)	
8月	8日(土)	親と子の都市と建築教室「家をつくろう(第9回ワークショップ)」
	9日(日)	
	22日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第7回)」
	15日(火)	公開研究会「JASS5ー2009における品質管理および検査について」
5月	16日(土)	第5回都市熱環境シンポジウム「風通しに配慮した都市のヒートアイランド対策」
	19日(火)	第5回公開研究会「地域コンテクストの共有化をめざす景観協議ー芦屋の景観条例と景観地区」
6月	10日(水)	「RC 造建築物の環境配慮-RC 造建築物の長寿命化」～けんざい2009 建築トレンドセミナー～
7月	30日(木)	第6回公開研究会「景観から景観まちづくり、そして、まちづくり」
9月	29日(火)	第7回公開研究会「大規模建築物の景観誘導のあり方を考えるー西宮・神戸の誘導方策を通じて」

10月	22日(木)	第6回圧送技術研究会「コンクリートのポンプ圧送性に関する総合的な評価」
	23日(金)	シンポジウム「内陸地震に対して構造設計者はどう対応すればよいか?地震荷重と構造設計」
	6日(金)	第48回構造力学コロキウム「構造デザインと力学原理」
	9日(月)	第11回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究者研究発表・交流会
11月	24日(火)	シンポジウム「照明により視作業性を高められるか?」
	25日(水)	第8回公開研究会「電線類地中化できる理由、できない理由ー電柱大国からの脱皮」
12月	5日(土)	光環境シンポジウム「空間を魅せる光と色ー一視覚のマジックII」
	10日(水)	第9回公開研究会「都市のみどりを使いこなす」
2月	20日(土)	南海地震等の減災に関する研究会「東海・東南海・南海地震における津波避難に関する研究ー和歌山県本町の避難タワーを対象として」
	1日(月)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第八巻「画像の空間的性質について」
	8日(月)	公開研究会「視的快適性に基づく昼光照明の性能評価に関する研究」
	9日(火)	第3回空気環境シンポジウム「家具によるシックハウス問題の現状と対策」
3月	13日(土)	第88回建築論部会講演会「フーゴー・ヘーリング:住宅設計から読み解くオルガンハフト建築」
	26日(金)	シンポジウム「鉄筋コンクリート構造物のコンクリート補修マニュアル」
	27日(土)	第49回構造力学コロキウム「構造と地震リスク」 シンポジウム「三都の智慧に学ぶ:水から読み解く、安心で豊かな住まい・まちづくり」

平成 22 (2010) 年度

5月	25日(火)	2010年日本建築学会文化賞受賞記念講演会「近代産業遺産の『建築・現代アート・環境』をテーマにした保存・再生とその運営」
7月	31日(土)	
8月	7日(土)	親と子の都市と建築教室「家をつくろう(第10回ワークショップ)」
	8日(日)	
	21日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第8回)」
7月	8日(木)	第11回公開研究会「都市空間デザインの展望ー一日伊の比較を通して」
9月	24日(金)	耐震基礎研究報告会「地震被害からみた建築基礎構造の設計・施工上の留意点」
10月	15日(金)	シンポジウム「ハルス性地震動に対する建物の応答特性を考える」
	16日(土)	シンポジウム「小規模農山村集落研究の未来像」
	2日(火)	第12回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究者研究発表・交流会
11月	13日(土)	第50回構造力学コロキウム「免震・耐震設計法に関する近年の話題」
	27日(土)	第1回アーバン・デザイン甲子園公開審査会
	12日(日)	都市環境シンポジウム「風の道によるクルシティ」
12月	15日(水)	第7回圧送技術研究会「コンクリートのポンプ圧送性に関する総合的な検討」 公開研究会「認知症の高齢者や障がい者が元気になる環境とは」
	25日(土)	第89回建築論部会講演会「リチャード・ノイトラの建築観と日本」
1月	18日(火)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第九巻「人と温熱環境との関わり」
	11日(金)	第51回構造力学コロキウム「構造力学の基礎研究と実務設計例」
3月	14日(月)	公開研究会「視認性評価に関する最新の研究」
	29日(火)	第90回建築論部会講演会「アイリーングレイの家具・インテリア・建築に関する考察」

平成 23 (2011) 年度

5月	25日(水)	2011年日本建築学会大賞受賞記念講演会「規模計画・安全計画・建築人間工学の確立と発展に関する一連の功績」
7月	30日(土)	
	6日(土)	親と子の都市と建築教室「家をつくろう(第11回ワークショップ)」
8月	7日(日)	
	20日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第9回)」
7月	22日(金)	鉄筋コンクリート構造部会コロキウム「2010年版 RC 規程を読み解く」
9月	19日(月)	プランナーとの公開ワークショップ「建替え・再開発の転換期にある千里ニュータウンー計画理念の再評価と空間システムの継承に向けて」
	8日(土)	第52回構造力学コロキウム「建築構造設計に係わる問題ー構造物の破壊挙動と構造解析モデル」
10月	31日(月)	第13回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究者研究発表・交流会
	1日(木)	公開研究会「大阪市の都市再生と居住地の変容ー都市再生は何を實現したのか?ライプニール(ドイツ)、ロサンゼルス、大阪の都市間比較」
12月	1日(木)	シンポジウム「内陸直下型地震と海溝型地震のどちらに備えればよいか?<増大する地震動レベルに対する設計>」
	3日(土)	第2回アーバン・デザイン甲子園 公開審査会
	8日(木)	第12回公開研究会「都」の「美」を考えるー建築論の立場から」
1月	11日(水)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第十巻「都市計画のための気候解析と計画指針」
2月	15日(水)	第8回圧送技術研究会「コンクリートのポンプ施工法の改善と圧送メカニズムの検討」
	9日(金)	第4回空気環境シンポジウム「住宅換気の現状と今後のあり方を考えるー住宅は自然換気だけではいけなかい?」
	10日(土)	農村計画部会ワークショップ「集落の持続性と文化的景観」
3月	11日(日)	
	15日(木)	第5回公開研究会「環境心理と光環境:光環境が空間認知に及ぼす影響」
	16日(金)	第53回構造力学コロキウム「建築構造の応答に及ぼす諸因子の効果と制御方法」
	25日(日)	第91回建築論部会講演会「アドルフ・バネーの建築思想における「表現主義」について」

平成 24 (2012) 年度

5月	24日(木)	2012年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会「加古川のオフィス」
7月	28日(土)	
	4日(土)	親と子の都市と建築教室「まちリンピック開催 まちをつくろう! (第12回ワークショップ)」
	5日(日)	
8月	18日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第10回)」
10月	20日(土)	京都建築専門学ワークショップ公開イベント「京都市・平成の京町家」伝統型モデルハウスでの竹子舞踊みおよび壁塗塗り
11月	11日(日)	
3月	9日(土)	2012年度災害市民企画「親子で参加!ハンプー・シェルターをつくろう」 第一会場-和歌山県建築士会3階会議室、第二会場-電が台地域福祉センター、 第三会場-高砂球場
	30日(土)	2012年度災害市民企画「市民防災交流報告会」 (国際交流振興基金 助成事業)セミナー「断熱材の経年劣化に関する研究の近年の動向」
	1日(金)	第92回講演会「建築家・都市計画家アンリ・プロストー保護領モロッコ上陸まで」 「市民、行政、大学の連携による持続的な地域継承のしくみを目指して」
6月	30日(土)	
7月	9日(月)	「公開討論!市政改革プランと大阪市立住まい情報センター&住まいのミュージアム」
9月	25日(火)	都市気候に関する特別講演会「Urban Climate,global climate change,air pollution」
	10日(土)	第54回構造力学コロキウム「構造設計理論と実務設計ー構造解析プログラムと応答解析シミュレーション」
11月	12日(月)	第14回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究者 研究発表・交流会
	8日(土)	第3回アーバン・デザイン甲子園公開審査会
12月	8日(土)	建築論部会 修士論文・卒業論文合同発表会
	15日(土)	研究会「篠山のアたらしい」住みほぎ」現場を巡る」
1月	21日(月)	「なoshタル」実施工デモンストレーション
2月	20日(水)	第9回圧送技術研究会「超高所圧送における軽量コンクリートの圧送性の評価を中心として」 「住」について学ぼう!ー「住教育」をみんなで考えるセミナー
	10日(日)	第93回講演会「修学院離宮における風景成立の過程について」
	11日(月)	公開研究会「ル・トロネ修道院を巡る一考察」
3月	15日(金)	第55回構造力学コロキウム「非正常入力を受ける構造物の応答評価を考える」
	18日(月)	フォーラム「暮らし続ける住まいー「安心」な居場所づくりを考える」
	29日(金)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第十一巻「音場解析あれこれ」

平成 25 (2013) 年度

5月	23日(木)	2013年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会「アトリエ・ビスドール」
7月	28日(日)	
	3日(土)	親と子の都市と建築教室「エネルギーのまちをつくろう! (第13回ワークショップ)」
8月	4日(日)	
	24日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第11回)」
7月	2日(火)	シンポジウム「想定を超える地震・地震動に対する建築物の応答と今後の耐震設計」
8月	2日(金)	第7回 GNN 技術勉強会「大阪の熱い生コン」
	9日(土)	三都市巡回展「すまい・まちづくり学習フェスタ」(京都会場)
	15日(金)	第56回構造力学コロキウム「木質構造の最新の研究と実務設計例」
	16日(土)	建築論部会 修士論文・卒業論文 合同発表会
	19日(火)	第15回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学 若手研究者研究発表・交流会
	7日(土)	第94回講演会「建築と境界現象」
12月	8日(日)	第4回アーバン・デザイン甲子園公開審査会
	1日(土)	木の構造デザインの可能性ー一見学と講演一
2月	19日(木)	第10回圧送技術研究会「低スランプコンクリートの圧送性の評価を中心として」
	2日(日)	第95回講演会「アルベルティの『建築論』を修復論として読むー第十巻「修復」を手がかりとして」
3月	26日(水)	環境工学ベテランズシリーズ第十二巻「最近楽しく勉強していること」
	28日(金)	第5回 空気環境シンポジウム「国内外における換気・空気質基準の現状と問題点」

平成 26 (2014) 年度

5月	23日(金)	2014年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会「神戸国際中学校・高等学校 河野記念アルモニホール」
	2日(土)	
8月	3日(日)	親と子の都市と建築教室「みんなのまちをつくろう! (第14回ワークショップ)」
	23日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第12回)」
6月	7日(土)	特別講演会「韓屋の新しい形ー設計作業の最新情報」
7月	8日(火)	シンポジウム「兵庫県南部地震から20年 何を学び、どう耐震設計に反映するか?」
	3日(金)	第58回構造力学コロキウム「大規模・大次元の構造解析手法と構造設計」
10月	18日(土)	第96回講演会「フィリム・モリスの生活芸術思想ー一晩年の書物論を中心として」
11月	26日(土)	第16回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究発表・交流会
	7日(日)	第5回アーバン・デザイン甲子園公開審査
12月	13日(土)	建築論部会 修士論文・卒業論文・合同発表会
1月	24日(土)	シンポジウム「舟屋の暮らしー地域資源の持続性を考えるー」
	11日(水)	公開研究会「研究プラットホームーアジアの博士論文」
2月	18日(木)	第11回圧送技術研究会「スランプと使用材料の違いが圧送性に及ぼす影響」
	28日(土)	講演会「場から湧き出し、場を刺激する建築」

	4日(水)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第十三巻「現象をみえるかたちに」
3月	10日(火)	公開研究会「輝度を用いた視環境設計に関する一連の研究」
	27日(金)	第59回構造力学コロキウム「超弾性材料の現状と展望」

平成 27 (2015) 年度

5月	25日(月)	2015年日本建築学会作品選奨受賞記念講演会「大阪木材仲買会館」
	1日(土)	
8月	2日(日)	親と子の都市と建築教室「みんなのまちをつくろう! (第15回ワークショップ)」
	22日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第13回)」
4月	21日(火)	液状化対策研究報告会 一関西地方における液状化の被害と最近の対策工法
10月	13日(火)	シンポジウム「大阪市の大振幅予測地震動と今後の耐震設計」
	17日(土)	第60回構造力学コロキウム「構造力学の過去・現在・未来」
11月	10日(火)	第17回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究者研究発表・交流会
	12日(土)	建築論部会 修士論文・卒業論文合同発表会
12月	13日(日)	第6回アーバンデザイン甲子園公開審査会
1月	23日(土)	「現代日本ハウジング史」出版記念シンポジウム
	19日(金)	第1回基礎構造部会 U40企画公開研究会
	24日(水)	第12回圧送技術研究会「ポンプ機構が圧送性に及ぼす影響と閉塞危険性の評価」
2月	27日(土)	講演会「空き家再生の現場からー地方都市、団地、農山村における活動」
	29日(月)	公開研究会「省エネ及び視環境性能向上のための昼光照明設計法に関する基礎研究」 住まい・まちづくりセミナー「市民向け住情報の現状ー日本と韓国の調査から」
	1日(水)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第十四巻「様々なモデルとの出会い」
3月	16日(水)	第6回空気環境シンポジウム「PM2.5をはじめとする最近の室内外微粒子問題と健康影響」
	21日(月)	講演会「近代建築家の茶室論にみる茶の湯の生活空間に関する研究」

平成 28 (2016) 年度

5月	25日(水)	2016年日本建築学会文化賞受賞記念講演会「造園史と比較都市文化研究に関する一連の著作を通じた我が国の環境文化の啓蒙」
	5日(金)	男女共同参画推進のための第1回懇談会「男女共同参画の取組についてー大阪府建築士会の取組を中心に」
8月	6日(土)	親と子の都市と建築教室「自然エネルギーのまちをつくろう! (第16回ワークショップ)」
	7日(日)	
	20日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第14回)」
5月	14日(土)	公開講演会「19世紀フレンチの首都化における意匠性の表出ー建築家ジュゼッペ・ボッジによる都市改造計画をとおして」
6月	7日(火)	鉄筋コンクリート造建築物の構造解析精度の向上に関するシンポジウム
	3日(水)	第11回 Field 実験
8月	4日(木)	
	12日(金)	平成28年熊本地震による木造建築物の被害調査報告会
	1日(火)	シンポジウム「熊本地震の被害経験を関西の被害軽減促進に如何に繋げるか?」
11月	15日(火)	第18回近畿環境工学シンポジウム、建築環境工学若手研究者研究発表・交流会
	19日(土)	公開研究会「日本の建築空間と境界」
	3日(土)	第7回アーバン・デザイン甲子園公開審査会
12月	20日(火)	第61回構造力学コロキウム「構造力学における新しいニーズとシーズ」
	23日(金)	第1回都市環境・設備分野合同発表会
1月	24日(火)	第1回空気環境・連続セミナー「病室の粒子汚染対策技術の最新動向」
2月	13日(月)	住まい・まちづくりセミナー「韓国の住宅政策の最新動向」
	22日(水)	第13回圧送技術研究会「暑中期におけるコンクリートの圧送性の評価」
	2日(木)	建築環境工学研究ベテランズシリーズ第十五巻「水と煙のはなし」
	4日(土)	公開研究会「照明シミュレーションを核とした建築視環境デザインの展望ー上谷芳昭先生が残されたヴィジョン」
3月	8日(水)	第2回空気環境・連続セミナー「室内気流の評価・解析と数値人体モデルの最新動向」
	25日(土)	第62回構造力学コロキウム「若手研究者からの構造力学への挑戦状」
	28日(火)	第3回空気環境・連続セミナー「医療関連感染症の制御技術の最新動向」
	30日(木)	特別講演会「気候変動に適応した都市環境計画とは」

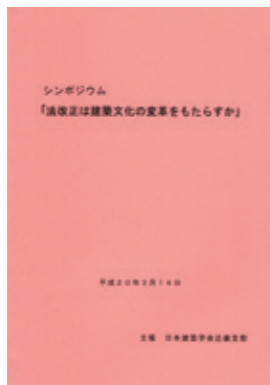
平成 29 (2017) 年度

5月	24日(水)	2017年日本建築学会大賞受賞記念講演会「室内空気浄化・換気設計に関する研究と空気環境教育による社会への貢献」
	5日(土)	
8月	6日(日)	親と子の都市と建築教室「宇布(ほし)にまちをつくろう! (第17回ワークショップ)」
	19日(土)	親と子の都市と建築教室「京町家の伝統技術を学ぶ(第15回)」
7月	22日(土)	公開研究会「近世住宅の空間と構成」
10月	27日(金)	シンポジウム「宇布の環境を考えるー学校建物の快適性を目指したやさしい環境制御」
11月	6日(月)	シンポジウム「大振幅地震動に対する設計と地震対策の最新動向」

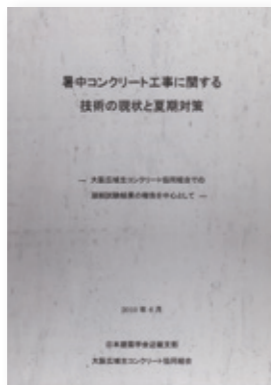
委員会主催事業

支部活動状況 (刊行物)

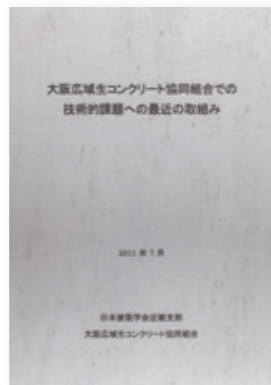
出版年月	タイトル	サイズ	頁	編著者名
H20 (2008)	3月 法改正は建築文化の変革をもたらすか	A4	52	平野吉信・他5名
H20 (2008)	12月 建築紛争の現状と課題 (その2) -大阪地方裁判所における建築裁判から-	A4	38	鈴木計夫・他4名
H22 (2010)	6月 暑中コンクリート工事に関する技術の現状と夏期対策	A4	238	小山智幸・他6名
H23 (2011)	7月 大阪広域生コンクリート協同組合での技術的課題への最近の取組み	A4	82	西村文夫・他8名
H23 (2011)	12月 建築紛争の現状と課題 (その3) -大阪地方裁判所における建築裁判から-	A4	49	小野徹郎・他6名
H24 (2012)	7月 ストック再生活用のための手法 -用途変更の課題を解決する-	A4	18	青木 茂・他5名
H24 (2012)	7月 用途変更事例の追跡調査による建築物の長期利用実態と活用手法 (CD-ROM付)	A4	113	藤本佳子・他7名
H24 (2012)	7月 大阪広域生コンクリート協同組合での技術的課題への取組み	A4	126	中村成春・他8名
H25 (2013)	3月 近畿で想定される超大地震に備える ~鋼構造分野の取組~	A4	52	多賀謙蔵・他4名
H25 (2013)	5月 暑中コンクリート工事における対策マニュアル	A4	276	岩清水隆・他19名
H26 (2014)	1月 建築構造デザイナーの設計シーズ -発想から展開まで-	A4	44	満田衛資・他3名
H26 (2014)	7月 フライアッシュおよび回収骨材を使用したコンクリートに関する技術的取組み	A4	137	栗延正成・他12名
H26 (2014)	7月 フライアッシュ使用コンクリートの特性に関する調査研究 技術資料	A4	302	大野義照・他25名
H27 (2015)	4月 <環境が形態を決める> -建築・エンジニアリングデザインの最前線-	A4	24	齊木崇人・他5名
H27 (2015)	12月 建築紛争の現状と課題 (その4) -大阪地方裁判所における建築裁判から-	A4	43	上谷宏二・他7名
H28 (2016)	3月 デジタル・コンストラクション - BIM 施工革新の展望-	A4	32	大西康伸・他6名
H29 (2017)	3月 暑中コンクリート工事における対策と取組みの現状	A4	102	山崎順二・他8名



H20(2008)3月
「法改正は建築文化の変革をもたらすか」



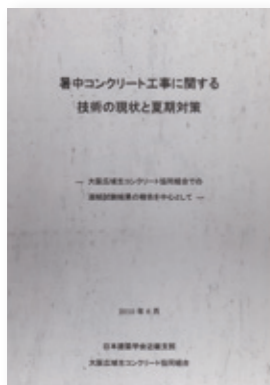
H22(2010)6月
「暑中コンクリート工事に関する技術の現状と夏期対策」



H23(2011)7月
大阪広域生コンクリート協同組合での技術的課題への最近の取組み



H23(2011)12月
建築紛争の現状と課題 (その3) -大阪地方裁判所における建築裁判から-



H25(2013)5月
暑中コンクリート工事における対策マニュアル



H26(2014)1月
建築構造デザイナーの設計シーズ -発想から展開まで-



H28(2016)3月
デジタル・コンストラクション - BIM 施工革新の展望-



H29(2017)3月
暑中コンクリート工事における対策と取組みの現状

支部活動状況 (見学会)

平成19 (2007) 年度

9月	29日(土)	西武庫園地31号棟 住戸改修実験プロジェクト	環境保全部会
10月	27日(土)	(建築文化週間2007) 重要文化財「鶴屋会館」	近代建築部会
12月	15日(土)	重要文化財「旧中筋家住宅」保存修理工事現場	民家部会

平成20 (2008) 年度

4月	25日(金)	中之島ダイビル 工事業所	基礎構造部会
6月	28日(土)	大阪市公館	近代建築部会
8月	2日(土)	重要文化財「山口家住宅」修理工事業所	民家部会
	18日(土)	(建築文化週間2008) 重要文化財「旧小西家住宅」	近代建築部会
10月	23日(木)	「SPRING-8」X線自由電子レーザー施設 建設工事業所	材料・施工部会
	31日(金)	彩都	建築経済部会
11月	8日(土)	上町新層(大阪市中央区上町台地地区)	耐震構造研究部会
1月	17日(土)	新朝日ビル「フェスティバルホール」	近代建築部会
	22日(木)	「シティアタワー-大阪天満」建設工事業所	鉄筋コンクリート構造部会
2月	21日(土)	和歌山県田辺市江川地区	南海地震等減災プロジェクト研究部会

平成21 (2009) 年度

6月	29日(月)	大阪市立大学 高原記念館	光環境部会
7月	15日(水)	箕面ヒルズ	建築経済部会
8月	25日(火)	日織住金建材 仙台製造所	鉄骨構造部会
	16日(水)	「(仮称) MID ビル」建設工事業所	鉄骨構造部会
9月	18日(金)	大阪工業大学 空間デザイン研究室	情報システム部会
	29日(火)	(建築文化週間2009) ダイビル (旧大阪ビルテック)	近代建築部会
12月	6日(日)	東濱口家住宅	民家部会
1月	23日(土)	重要文化財「小川家住宅」修理作業所	民家部会
3月	17日(水)	南海ビル	近代建築部会

平成22 (2010) 年度

6月	8日(火)	パナソニック電気 門真本社	光環境部会
8月	11日(水)	24時間自然換気住宅(彦根市山之崎町 個人住宅)	空気環境部会
11月	4日(木)	(建築文化週間2010) 大阪府庁舎	近代建築部会
2月	24日(木)	「住友金属工業 総合技術研究所新1号館」建設工事業所	鉄骨構造部会

平成23 (2011) 年度

7月	23日(土)	松橋部	近代建築部会
9月	14日(水)	旧小西家住宅、旧大林本店、旧生駒時計店	建築経済部会
	29日(木)	(建築文化週間2011) 旧大阪市立精華小学校	近代建築部会
10月	19日(水)	大阪駅前北地区先行開発区域プロジェクト・Aブロック	鉄骨構造部会
11月	16日(水)	大阪府庁本館「正庁の間」修復工事	近代建築部会
12月	16日(金)	泉北ほっとけないネットワーク(国土交通省 平成22年度高齢者等居住安定化推進事業)	建築経済部会
1月	26日(木)	寺西家 阿倍野長屋・町家	建築経済部会
2月	18日(土)	「火伏医院 主屋」曳家工事	民家部会
3月	16日(金)	関西電力 舞鶴火力発電所	材料・施工部会
	29日(木)	IWA システム実証実験	材料・施工部会

平成24 (2012) 年度

5月	15日(火)	HOSTEL64 OSAKA、館原アパートメント	建築経済部会
7月	26日(木)	住友金属工業 和歌山製鉄所 高炉建設現場	鉄骨構造部会
10月	6日(土)	(建築文化週間2012) 京都市考古資料館(旧西陣織物館)、本野精吾自邸	近代建築部会
11月	27日(火)	梅田阪急ビル	建築経済部会
12月	15日(土)	NPO 法人集落丸山(藤山市丸山集落)	農村計画部会
	19日(水)	サボネの家(NPO 法人障害者の自立を支えるサポートネットワーク)	建築経済部会
1月	21日(月)	吹田歴史文化まちづくりセンター・浜屋敷	建築経済部会
2月	13日(水)	旧中西家住宅	建築経済部会
	25日(月)	京だらんらん東福寺(京町家リノベーションシェアハウス)	建築経済部会
3月	10日(日)	甲子園会館	建築論部会

平成25 (2013) 年度

8月	1日(木)	グランフロント大阪	空気環境部会
10月	16日(水)	(建築文化週間2013) ジェームス邸	近代建築部会
12月	6日(金)	「(仮称) 新・新ダイビル」建設工事業所	鉄骨構造部会
1月	10日(金)	北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所	住宅部会
2月	1日(土)	大阪木材仲買会館、越井木材工業	設計・計画部会
	8日(土)	大阪新歌舞伎座	近代建築部会
3月	12日(水)	日本冶金工業 大江山製造所	材料・施工部会

平成26 (2014) 年度

6月	18日(水)	旧新町演舞場(大阪屋本社ビル)	近代建築部会
	20日(金)	奥村記念館	基礎構造部会
10月	14日(火)	(建築文化週間2014) 東大阪市旭町庁舎(旧枚岡市庁舎)	近代建築部会
11月	18日(火)	佐々木製織工業 伊丹工場	鉄骨構造部会
1月	15日(木)	オムロンヘルスケア 本社ビル	空気環境部会
	24日(土)	琴ノ浦温山荘園 主屋、浜屋敷	近代建築部会
2月	28日(水)	竹中大工道具館、神戸国際中学校・高等学校「河野記念アルモニホール」	建築論部会
3月	3日(火)	大和ハウス工業 総合技術研究所	音環境部会
	31日(火)	住友金属鉱山 別子事業所	材料・施工部会

平成27 (2015) 年度

5月	20日(水)	「(仮称) 吹田市立スタジアム」建設工事業所	鉄骨構造部会
6月	24日(水)	パナソニックショールーム(ツイン21 OBP パナソニックタワー 1階)	光環境部会
7月	30日(木)	サントリーワールドリサーチセンター	空気環境部会
11月	7日(土)	(建築文化週間2015) 西脇小学校、西脇市民会館	近代建築部会
2月	19日(金)	大丸百貨店 心斎橋店	近代建築部会
	25日(木)	東京製織 田原工場	材料・施工部会

平成28 (2016) 年度

7月	14日(木)	大光電機 本社ショールーム	光環境部会
10月	17日(月)	「(仮称) 大阪商工信用金庫 新本店ビル」建設工事業所	鉄骨構造部会
	21日(金)	(建築文化週間2016) 大津市庁舎、旧大津公会堂	近代建築部会
2月	8日(水)	沖縄管理不全マンション調査(浦添市内管理不全マンション)	建築経済部会

平成29 (2017) 年度

7月	7日(金)	ダイキン工業 テクノロジー・イノベーションセンター	光環境部会
10月	7日(土)	(建築文化週間2017) 宮津市庁舎、宮津武病院、与謝医師会	近代建築部会

作品選奨

掲載作品は、近畿支部エリアに所在する 2007年から2016年の間の作品選奨作品

2007		兵庫県立芸術文化センター	江副 敏史・甲 勝之（日建設計）
2008		龍谷大学大宮図書館	赤木 隆（日建設計）
		Gravitecture 大阪城	遠藤 秀平（神戸大学）
		総合地球環境学研究所	岡本 隆・寺岡 俊彦・久下 武彦（日建設計）
		京都市本能特別養護老人ホーム 京都市立堀川高等学校本能学舎	設楽 貞樹・寺岡 宏治・森 雅章・奥 貴人（安井建築設計事務所）
2009		大阪弁護士会館	江副 敏史（日建設計）
2011		世界遺産 熊野本宮大社	香山 壽夫（香山壽夫建築研究所）
2012		加古川のオフィス	坂本 昭（坂本昭・設計工房 CASA）
2013		アトリエ・ビスクドール	前田 圭介（UID）
2014		神戸国際中学校・高等学校 河野記念アルモニホール	中西 正佳・福垣 哲朗（竹中工務店）
		中川政七商店新社屋	吉村 靖孝（吉村靖孝建築設計事務所）
2015		大阪木材仲間会館	白波 瀬智幸・興津 俊宏（竹中工務店）
2016		ザ・リッツ・カールトン京都	大谷 弘明（日建設計）
		チャイルド・ケモ・ハウス	手塚 貴晴・手塚 由比（手塚建築研究所）・大野 博史（オーノ JAPAN）
		竹中大工道具館新館	小幡 剛也・須賀 定邦・中西 正佳（竹中工務店）



撮影：東出 清彦

2007 兵庫県立芸術文化センター

江副 敏史・甲 勝之（日建設計）

とにかく飛びぬけた素材感を持つ。観客の目にふれるところに薄っぺらな素材はない。コンクリートとガラスは当然として、床とホール内の壁に使われた木の質感が素晴らしい。また、ガラスとコンクリート独立柱、レンガを効果的に配し、石造建築を思わせる。夜景、特に巨大なガラス越しに浮かぶエントランスの曲面天井とその上の小ホールも美しい。しかし、落ち着いた空間の創出に投入された技術は半端なものではない。両端ピン支持のPCコンクリート柱の列柱、曲面コンクリート天井、共通ロビーへの天空光の取り入れなど、現代建築技術の粋が凝らされている。3つのホール相互と裏方空間との関係も計画的に考え抜かれている。全体として統一的な造形印象を抱きにくい反面、詩情をたたえた極めて印象的なシーンが随所に出現するのも現代的な手法として評価したい。

選評：黒田 龍二



撮影：東出 清彦

2008 龍谷大学大宮図書館

赤木 隆（日建設計）

例えば古い蔵をギャラリーに再利用された空間の魅力は改修された既存の空間の力を現在に呼び起こす事で生まれるのだろう。龍谷大学大宮図書館は昭和11年竣工の図書館を改修し、新しい図書館機能を与えて現在に蘇らせる試みである。かつての建物の外観は殆どがそのまま残すようリニューアルされており隣接する歴史的建築物の中で全く違和感がない。最も大きな改修は耐震補強と共に既存の中庭を内部化したことで、いわば新しい内部を既存の外殻に閉じ込めた態といえる。新しい内部は中央に2～4層の吹抜けをもち、シースルーエレベーターが各階をつなぐ。シースルーのメカニカルな姿がオブジェとしてこの空間に現在性をもたしている。天井はかつての中庭からの天空に替わって、全面幕による光天井が柔らかな光を各階にそそぎ、心地よいハレの空間を形成している。これら挿入された大胆な構成が既存の建築の力に対して拮抗することで、新旧時間のコントラストを際立たせている。このことがアカデミズムにおける時間の積層を暗示しているようにも見えるのである。

選評：北村 潤

2008 Gravitecture 大阪城

遠藤 秀平（神戸大学）

それは、大阪城を堀の外側から見違る、小さいけれどとつむなく力強い、3基のトイレである。大手前、城南、レストハウスと名付けられたこの3建築は、“耐候性鋼板の1枚屋根”を共通のキー・デザインとする。大手前と城南では厚さ16mmが四角形に、レストハウスでは19mmが円形に切られて屋根となり、さらにそれは、大手前では、両端を25mmの鋼板で構成されたトラス形状の構造壁で吊られ、城南では、対角線で折られて厚さ36mmの鋼板壁に載せられ、レストハウスでは、中に偏芯した孔を空けられ、径70mmの実管3本を1ユニットにした構造柱で突かれる。重力界の中、そして現れた姿は、自らの重みで生まれた“挽み”と“反り”。そこに表現される力は、太古の人間も感じた、原始の“建築力”であろう。重い1枚の鉄板は、あたかも1枚の布地や紙のように扱われ、折り紙や着物、幕で培われてきた、私たちの感性を刺激する。

選評：小林 正美



撮影：古田 雅文

2008 総合地球環境学研究所

岡本 隆・寺岡 俊彦・久下 武彦（日建設計）

このような大規模な建築物が建つことが想定されていない京都の風致地区内の山裾に建つ。大屋根の研究ユニットごとの分割や細かい出窓が連続する壁面、瓦・焼杉板・レンガといった自然素材により、長大な建物を背景の緑になじませている。和風の意匠や屋根勾配など風致地区内の詳細な基準に準拠しながらも縛られることなく、和風をデザインすることの可能性を見せてくれる。また、こうした研究施設では独立性を重視して個々の研究ユニットごとに空間を分割しがちであるが、ここでは研究ユニットごとの空間を通りぬけていく廊下によって全体がゆるやかに連続する大空間となり、言語も専門も異なる研究者が自然と出会うことが期待されている。山風が抜けるように開口の開閉をコントロールし、拡散光を取り入れ、季節や気候による変化に対応しながら、自然環境を生かした環境制御の工夫が積み重ねられている。使いこなしの多様性を内包する建築環境である。

選評：小浦 久子



撮影：津田 裕之（エスエス大阪）

2008 京都市本能特別養護老人ホーム・京都市立堀川高等学校本能学舎

設楽 貞樹・寺岡 宏治・森 雅章・奥 貴人（安井建築設計事務所）

統廃合によって使われなくなった小学校用地の開発である。大阪や京都の都心の小学校は地域の人々が子女の教育のために建てたものであり、地域の資産である。ここは京都の職住共生地区内にあり、古い伝統とマンション開発にみられる新しい変化が拮抗するなかで、小学校に残る地域の記憶を継承しつつ新たなコミュニティを育む場の提案が求められている。特別養護老人ホームと高等学校の武道館と分館、地域交流施設といった事業主体も利用者も異なる3つの機能を1つの建物にまとめる難しい課題を解決し、大きなボリュームをできるだけ節節し地域になじませる工夫をしている。その中で向かい合う高校の教室とホームの居室の近いようで離れている距離感、本能辻子と呼ぶ敷地の通り抜け空間など、敷地内部には親しみある空間ができています。

選評：小浦 久子



撮影：東出 清彦

2009 大阪弁護士会館

江副 敏史（日建設計）

ガラスの箱を立体格子で覆うという極めてシンプルな組み合わせそのものを表現することの困難さを構造とデザインが一体となって解決を追求した結果として、この建築がある。ガラスと立体格子はそれぞれ独立した存在としての関係性をもたせることで立体格子が軽やかに空中に浮遊する。立体格子を形成する大型のタイルの重厚感とその形態が持つ軽快さが見るものを幻惑させる。内部に使用されているレンガ積もまた透かされた壁となるよう配慮されて、そのレンガの重量から壁を解放させているかのように窺える。この建築では素材の持つ重量を常に裏切るように見せることで、空間に開放性をもたらしことが意図されているのだろう。1、2階吹抜けのロビーでは、床は外壁に使われた陶板の捨てられる一面を使用し、壁はレンガ積、天井はGRCと力強い素材感を生かしながら開放的な空間が目指されている。水都大阪を象徴する中之島に優れた景観要素が付け加えられたことを喜びたい。

選評：北村 潤



撮影：新建築写真部

2011 世界遺産 熊野本宮

香山 壽夫（香山壽夫建築研究所）

世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」に含まれる本宮地区に建つビジターセンターは、片流れの大屋根をもつ北棟と南棟、そして前面広場の間の柱廊から構成されている。2棟の中央を東西に貫く軸は熊野川と背後の山の峰々へと連鎖し、建築の存在とその分節が大自然と町をつなぐグラデーションを形成している。一方、柱廊が形成する南北軸は、本宮大社と大斎原とを結ぶ線上に重ねられて歴史を紡ぐ軸とされている。構造材や仕上材には、県産の紀州スギがふんだんにそしてその質に忠実に用いられている。架構を大屋根とカーテンウォールが包み込み、内部に露出する梁や垂木と仕上げ等全てが意思の透徹した空間を形成している。北棟中央の八角形の多目的ホールは、上部でその形状を正方形とすることで、四隅の頂部から小屋組と木格子を通して降り注ぐ光は、柿渋塗装の仕上げと協奏して崇高な気配を醸し出している。建築が有する意味と強い力を信じるに足り得る作品である。

選評：近井 務



撮影：松村 芳治

2012 | **加古川のオフィス**

坂本 昭 (坂本昭・設計工房 CASA)

複数の事業を営むクライアント夫妻が、各事業の拠点とは別に、ゲストや社員とのコミュニケーションスペースを中心に計画したスモールオフィス。配置から内部空間まで、開くこと/閉じることが見事にデザインされた秀作である。敷地は住宅地内の幹線道路に面し、まずその前面道路側の約半分は芝生のオープンスペースとして地域に公開されている。そのことにより緑に映える白いキューブとしてこのオフィスにアイデンティティを与えることにも成功している。住宅地内であることに配慮して内外の視線は制御されているが、的確に閉じることにより内部空間はむしろ開放的にさえ感じられる。中央のコミュニケーションスペースとこれを巡るセミプライベートスペースは一体の空間でありながら変化に富み、その何処にいても、それぞれのスペースの役割に応じた心地よい落ち着きと広がり、美しく移ろう自然光を得ることができる。

選評：児玉 謙



撮影：上田 宏

2013 | **アトリエ・ビスクドール**

前田 圭介 (UID)

緑豊かな住宅地に建つ人形作家のアトリエ兼住宅である。何よりも目を引くのは、前面道路に面して宙に浮く帯状の壁(塀)である。この鉄骨造の壁は一見アクロバティックな印象だが、決して力業ではなく、構造的にもよく検討され、住宅のコンセプトやプランにもうまくマッチしている。この壁が水平方向の視線を遮りつつ、足下と上空への視界を開くことによって、セミパブリックな空間であるアトリエへの外部からの視線を遮りつつ、内部を外に開くことに成功している。境界を曖昧にすることにより、周辺の緑豊かな環境を取り入れ、あるいはこの敷地の緑を周辺に開放する効果もある。建物自体は、この壁を含めた計3本の帯状の壁が重なり合いながら構成されている。敷地の高低差を活かし、アトリエと住宅の間に絶妙な関係性を持たせた配置や、建物の中央に挿入された玄関、箕面の原風景を感じさせる自然な庭とアプローチ等、見所の多い秀作である。

選評：飯田 匡



撮影：稲住 泰広

2014 | **神戸国際中学校・高等学校 河野記念アルモニホール**

中西 正佳・福垣 哲朗 (竹中工務店)

神戸に建つ私立の中学校・高等学校の体育館で、グラウンドの山側(北側)に計画されている。山側の豊かな生態系を有する里山と呼応する建築とするため、大空間にもかかわらず木架構を取り入れて、北面を開放的な外観とし、風、光、緑の豊かな周辺環境を取り込まれている。逆に南面は、キャンパスの景観に配慮し、コンクリート打放し壁とし、対比的な外観を構成されている。構造は、北面を除く三面へ「コの字形」にRC造耐震壁を配置し、屋根面の剛性と強度を高めることで、全水平力を負担させている。そのことにより、木架構は鉛直力のみを負担すればよく、木造の屋根梁と柱の接合部の単純化を可能にされている。これまでのキャンパスのデザインコードを継承しつつ、豊かな周辺環境を最大限に取り込むため、積極的に木架構を取り入れた意欲あふれる優秀な作品といえる。

選評：横田 友行



撮影：吉村 靖孝

2014 | **中川政七商店新社屋**

吉村 靖孝 (吉村靖孝建築設計事務所)

郊外の風景の中に企業のアクティビティを形成する。場所性を認知した上で建築にアイデンティティを付与し、新たな磁場を形成する。街の表情を取り戻すという設計者の意図は、建築を道路境界に寄せて配し、背後の住宅街に連なるべくそのスケールをオーバーレイし、さらに奈良旧市街の町屋に見る機能性のモチーフからブロックを不均質な棟に分節することで正鶴を射た解に導かれている。加えて、それぞれに勾配屋根を設けて変化を与えることで躍動感溢れる表情のファサードが出現している。フィーレンデルの組柱の構造形式は、インテリアでストライプ状に配された執務と倉庫それぞれのエリアを平面上で規定し、一方断面では棟毎の高さの変化により排煙や採光を可能にする開口を有するという点で構造形式と建築計画との一致が図られている。汎用的で廉価な仕上材料に依りながらも、総合的には確かな審美眼と高い施工精度によるチープシックと言ってもよい装いが感じられる清々しい佇まいの作品となっている。

選評：近井 務



撮影：母倉 知樹

2015 | **大阪木材仲買会館**

白波瀬 智幸・興津 俊宏 (竹中工務店)

木材を余すことなく内外にふんだんに用いることで実現した木の殿堂は、その存在を社会へ強くアピールするという意味的強さを体現した建築として高く評価できる。防火地域におけるこの木造建築を実現に導いた3層式の耐火集成材は特筆されるべき新たな技術開発である。湾曲したファサードと大ひさしが桜の木と来客や通行者を包み込むような印象を形成しつつ、木製サッシはランダムな配置でファサードにリズム感を付与している。今ある2本の桜の木から決定された建築のフットプリントは正鶴を射ており、双方の視覚的ハーモニーが地域景観の向上に寄与している。夜間においては木質のインテリアが照明に融解し、地域に柔らかな表情を提供する。高い施工レベルに支えられた、木、スチール、コンクリートの精緻な仕上げとこれらの適確な配置による耐力・防火要素への適切な展開がなされているという点においても、論理性に裏付けられた建築が確かな存在性を有していると言える。

選評：近井 務



撮影：鈴木 正見 (スタジオムライ)

2016 | **ザ・リッツ・カールトン京都**

大谷 弘明 (日建設計)

京都に建つザ・リッツ・カールトンが常に意識された全体計画であり、京都に重きを置いた意味での景観への配慮と地域への配慮を第一に、そこにリッツ・カールトンというホテルを設計するという一貫した計画・設計の論理性、また、それを実現する構造と環境面での優れた工法・技術を見ることができる。「京都のザ・リッツ・カールトン」という唯一無二の高いオリジナリティーを感じさせる作品であり、周辺環境に溶け込む外観と機能性を持った魅力あふれる内部空間が実現されている。景観保全・高さ制限等により設計が限定される中、地上階のほぼ全てが134室の客室で構成され、客室以外のほとんどの施設・設備を地下に配した設計となっている点は大きな特徴である。その地下空間の設計においても、外部環境の取込み、地上階からの通路、中庭の取り方など、採光・雰囲気づくりの面などで数々の工夫により開放的で明るく、心地よい空間が実現されている。

選評：高橋 大武



撮影：木田 勝久

2016 | **チャイルド・ケモ・ハウス**

手塚 貴晴・手塚 由比 (手塚建築研究所)・大野 博史 (オーノ JAPAN)

小児医療ケア施設と、住居との中間的機能という新たな施設の在り方を、建築主・設計者が協働で創出された作品。制度を含めて多くの課題を長時間かけて、克服、実現されたことの意義に敬意を表したい。過酷な境遇の子供達のためのケア施設を家と見たてた、さりげないしつらいに、施設の目的に合致した心づかいが感じられる。内部空間では共用部の中心に配された中庭や各所にスリット状に切り込まれた中庭、そして効果的に配されたトップライトや天井高の変化によって内部でありながら外部空間のような、静かな小広場の趣きを獲得している。外部空間では、各個室へのサブアクセスを担う外周に巡らされた路地状アプローチの植栽が、導入にふさわしい外構を形成しており、医療特区である周辺の非住居的景観の中にあって、住宅らしいイメージの創出にも効果的である。

選評：内海 慎介



撮影：古川 泰造

2016 | **竹中大工道具館新館**

小幡 剛也・須賀 定邦・中西 正佳 (竹中工務店)

六甲山の緑につながる庭園のなかに建つ端正な瓦屋根の平屋棟が美しい。地上に見えるのはこの平屋棟のみで、地下に展示室をおく空間構成。この地上階を一見なにげなく普通の和風建築に見せるために、じつはスケールとプロポーション、ディテールに惜しみない手間隙をかけたという。その設計姿勢と高い精度の施工が評価できる。また、淡路の達磨釜で焼いた敷瓦、久住章氏による削出し土壁や、その他しっくい壁、五寸新で新った名栗板扉など、木や土や、瓦や石や鉄が織りなす空間が流れるようにつながっていく。そこに、伝統職人技術の継承と再現、さらに現代技術との融合をめざした企画の確かさと設計の巧みさがあり、その原点には、この建築に関わった人々の、伝統的な材料や職人技術に裏打ちされた「ものづくり精神」に対する深い想いがうかがえる。職人技術を現地現物で体験し、建築伝統文化を後世に伝えていく大工道具館というプログラムにもまことにふさわしい器となっている。

選評：三輪 康一

法人・賛助会員／70周年記念事業協賛団体／70周年記念事業委員会

法人・賛助会員

株式会社アール・アイ・エー
株式会社浅沼組
株式会社新井組
エスケー化研株式会社
大阪ガス株式会社
大阪ガス都市開発株式会社
大阪工業技術専門学校
大阪兵庫生コンクリート工業組合
株式会社奥村組
鹿島建設株式会社
共同設計株式会社
近畿生コンクリート圧送協同組合
株式会社きんでん
株式会社熊谷組
栗本建設工業株式会社
株式会社黒田建築設計事務所
株式会社鴻池組
コーナン建設株式会社
株式会社サンゼン
ジェコス株式会社
清水建設株式会社
株式会社昭和设计
新晃工業株式会社
神鋼鋼線工業株式会社
住友電工スチールワイヤー株式会社
株式会社 AAA 総合設計
株式会社総合資格（総合資格学院）
大成建設株式会社
大和ハウス工業株式会社
高田機工株式会社
高松建設株式会社
株式会社竹中工務店
中央復建コンサルタンツ株式会社
株式会社東畑建築事務所
東洋建設株式会社
株式会社内藤建築事務所
西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
西日本旅客鉄道株式会社
西松建設株式会社
株式会社日企設計
株式会社日建設計
一般社団法人日本建築材料協会
日本コンクリート工業株式会社
株式会社ニュージェック
パナソニック株式会社エコソリューションズ社
阪神高速道路株式会社
阪神電気鉄道株式会社
不二建設株式会社
フジテック株式会社
株式会社三菱地所設計
株式会社安井建築設計事務所
ユニオンシステム株式会社
(50音順)

70周年記念事業協賛団体

株式会社アール・アイ・エー
IMV株式会社
株式会社浅沼組
株式会社梓設計 関西支社
株式会社新井組
株式会社アルキービ総合計画事務所
インテック ナレッジマネジメント株式会社
一般財団法人大阪科学技術センター
一般財団法人大阪建築技術協会
大阪広域生コンクリート協同組合
大阪兵庫生コンクリート工業組合
株式会社オーテック
株式会社大林組
株式会社奥村組
鹿島建設株式会社
株式会社関西宇都
関西電力株式会社 土木建築室
株式会社関電パワーテック
京都南生コンクリート協同組合
近畿生コンクリート圧送協同組合
株式会社きんでん
株式会社熊谷組 関西支店
一般社団法人グリーンコンクリート研究センター
株式会社鴻池組
神戸市
有限会社香山壽夫建築研究所
コーナン建設株式会社
坂本昭・設計工房 CASA
株式会社サンゼン
GNN 元気な生コンネットワーク
清水建設株式会社
学校法人修成学園 修成建設専門学校
株式会社昭和設計
株式会社神鋼環境ソリューション
新晃工業株式会社
住友金属鉱山株式会社
株式会社総合資格（総合資格学院）

株式会社双星設計
大成建設株式会社 関西支店
株式会社タイル建物研究所
大和ハウス工業株式会社
高田機工株式会社
株式会社竹中工務店
中紀生コンクリート協同組合
株式会社東畑建築事務所
株式会社内藤建築事務所
有限会社ナスカ
奈良県広域生コンマテリアル協同組合
奈良県中央生コンクリート協同組合
奈良県生コンクリート工業組合
西松建設株式会社 西日本支社
株式会社日建設計
一般社団法人日本建築材料協会
日本コンクリート工業株式会社
株式会社日本設計 関西支社
学校法人二本松学院 京都建築大学校
橋本・伊都生コンクリート協同組合
株式会社長谷工コーポレーション
株式会社フォービル
学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校
株式会社北條建築構造研究所
北神生コンクリート協同組合
株式会社松村組 大阪本店
三菱マテリアル株式会社
株式会社宗本晋作建築設計事務所
株式会社安井建築設計事務所
株式会社山本良介アトリエ
株式会社ユーデーコンサルタンツ
ユニオンシステム株式会社
株式会社澁川製鋼所
洛南生コンクリート協同組合
リード・アーキテクト株式会社
和歌山県生コンクリート工業組合

(50音順)

70周年記念事業委員会

会 長	小坂 郁夫	京都工芸繊維大学 工芸科学部 デザイン・建築学系／第34代支部長
副会長	渡邊 史夫	京都大学名誉教授／第31代支部長
副会長	森本 政之	神戸大学名誉教授／第32代支部長
副会長	横田 隆司	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻／第33代支部長
副会長	門内 輝行	大阪芸術大学 芸術学部 建築学科 京都大学名誉教授／第35代支部長

実行委員会		
委員長	門内 輝行	大阪芸術大学 芸術学部 建築学科 京都大学名誉教授／第35代支部長
副委員長	三輪 康一	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻／第36代支部長
副委員長	小林 陽一	(株)安井建築設計事務所 大阪事務所
副委員長	谷口 徹郎	大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻
副委員長	平川 恭章	(株)竹中工務店 大阪本店 設計部
副委員長	宮内 靖昌	大阪工業大学 工学部 建築学科
委員	梅宮 典子	大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻
委員	川野 寿彦	(一財)大阪科学技術センター
委員	小林 広英	京都大学大学院 地球環境学堂 地球環境学舎三才学林
委員	島野 幸弘	(株)竹中工務店 大阪本店 設計部
委員	中野 美奈	(一財)日本建築総合試験所 建築確認評定センター 建築確認評定部 性能評定課
委員	平田 晃久	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻
委員	北後 明彦	神戸大学 都市安全研究センター
委員	松原 茂樹	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻
委員	吉澤 幹夫	福岡大学 工学部 建築学科

募金委員会		
委員長	大淵 敏行	(株)安井建築設計事務所 大阪事務所
副委員長	北村 潤	(有)芦原太郎建築事務所 大阪オフィス
副委員長	桑原 進	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻
委員	岩清水 隆	(株)竹中工務店 大阪本店 技術部
委員	田辺 太一	(株)鴻池組 設計本部 建設設計第1部
委員	塚越 治夫	(株)日建設計 エンジニアリング部門 構造設計グループ 構造設計部
委員	徳岡 健夫	(株)奥村組 西日本支社 建築設計部
委員	難波 尚	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻
委員	平川 恭章	(株)竹中工務店 大阪本店 設計部
委員	藤井 彰人	(株)大林組 大阪本店 建築事業部 構造設計部
委員	樹井 健	関西大学 環境都市工学部 建築学科

式典委員会		
委員長	藤井 正則	(株)大林組 大阪本店 建築事業部 設計企画管理部
副委員長	笹村 欽也	(株)東畑建築事務所 本社オフィス大阪
副委員長	橋寺 知子	関西大学 環境都市工学部 建築学科
委員	阪田 匡	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻
委員	石井眞由美	(株)大林組 大阪本店 建築事業部 プロジェクト設計部
委員	上田 博之	(株)竹中工務店 大阪本店 設計部
委員	金多 隆	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻
委員	小林 陽一	(株)安井建築設計事務所 大阪事務所
委員	角田 耕一	(株)大林組 大阪本店 建築事業部 構造設計第三部
委員	山崎 順二	(株)浅沼組 技術研究所 材料研究グループ

略史出版委員会		
委員長	田路 貴浩	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻
副委員長	甲谷 寿史	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻
副委員長	向井 洋一	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻
委員	阪田 弘一	京都工芸繊維大学 工芸科学部 デザイン・建築学系
委員	永野 康行	兵庫県立大学大学院 シミュレーション学研究科
委員	鍋島美奈子	大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻
委員	畑中 哲夫	(株)竹中工務店 大阪本店 設計部
委員	山形 政昭	大阪芸術大学 芸術学部 建築学科

記念シンポジウム委員会		
委員長	木下 光	関西大学 環境都市工学部 建築学科
副委員長	大谷 真	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻
副委員長	真田 靖士	大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻
委員	小幡 剛也	(株)竹中工務店 大阪本店 設計部
委員	角田 皖治	京都工芸繊維大学 工芸科学部 デザイン・建築学系
委員	倉方 俊輔	大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻
委員	竹林 英樹	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻
委員	陶器 浩一	滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科
委員	長田 直之	奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科
委員	長濱 伸貴	神戸芸術工科大学大学院 芸術工学研究科
委員	牧 紀男	京都大学防災研究所 社会防災研究部門
委員	松岡 聡	近畿大学 建築学部 建築学科
委員	山本 麻子	(株::)アルファヴィル一級建築士事務所
委員	吉富 信太	立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科
委員	吉村 英祐	大阪工業大学 工学部 建築学科

編集後記 略史出版委員会

田路 貴浩（京都大学）
このたび無事に『70周年記念誌』が完成しました。原稿をお寄せいただいた方々には心よりお礼申し上げます。また、略史出版委員会委員の皆様、編集デザインを担当いただいたニーモックの森夕里子さん、表紙デザインの西山愛香さんには熱心なご協力いただき感謝いたします。そして、何よりも近畿支部事務局の皆様には、多大なるご尽力をいただきました。記して謝意を表します。

甲谷 寿史（大阪大学）
ネット検索ができ、ビッグデータでのアーカイブ化もされる時代だからこそ、情報を精査・厳選・整理して未来へ伝えることの意義は非常に大きい。60周年誌を読み返し70周年誌が見えてくるにつれ、強く思うようになりました。10年は個人の記憶が届く範囲としても良い区切りで、次は10年ごとの自分史でもまとめてみたいと思います。

向井 洋一（神戸大学）
略史の編集に携わり、この10年間で振り返る好機となりました。建築を取り巻く社会や環境に対して、より多くの知識を深めた10年であると同時に、より多くの無知を覚えた10年だったと思います。併せて、建築を通した学術的交流と情報発信に関して、近畿支部が果たしてきた役割の重要性を再認識することができたと感じます。

阪田 弘一（京都工芸繊維大学）
これまで支部活動への関わりは、学生時代から20年余りと歴史だけは無駄にあるものの研究報告会参加がほぼ唯一でした。編集作業を通じて10年間の活動の全容に触れ、研究会などで積み上げられた実績の数々、活動を下支えされた職員や役員の方々の献身に今更ながら気づかされ、支部会員であることを心強く思った次第です。

永野 康行（兵庫県立大学）
今回私は、支部活動状況（部会活動）構造・材料系の編集を担当しました。コンクリートと鋼材という伝統的な材料を用いて、今後の大地震動に対して備えるべく各部会は切磋琢磨しています。今回の編集作業を通じて、私自身、シミュレーションを用いてこれからの近畿支部活動に貢献していきたい気持ちを新たにしました。

鍋島 美奈子（大阪市立大学）
今回編集委員の一員になり、改めて学会の活動は学会員ひとりひとりの地道な貢献で成り立っていることを実感しました。様々な部会の活動を10年分積み重ねると、近畿支部としての確実な成果につながっていることもわかりました。本記念誌を通して次の世代の人たちに伝えていくことができれば、大変意義深いと思います。

畑中 哲夫（竹中工務店）
略史出版委員活動は、この10年間の近畿支部の活動を俯瞰的に見詰め直す貴重な機会となりました。「特色ある活動」に於いては取材を兼ねて活動に参画し、未来を担う子どもたちと共に荒壁を塗り、段ボールのまちを作るという興味深く楽しい経験を通じ建築教育啓蒙活動の継続重要性を肌で感じる事が出来ました。

山形 政昭（大阪芸術大学）
本誌は先の60年略史の構成を踏まえて、支部活動の10年をまとめた記録誌です。加えて、近年の特色ある活動を先ず挙げたいという委員長の発案を受けて構成を新たにしましたもので、この10年における新たな展開を広く会員に興味深く届けられたと思います。もとよりご寄稿頂いた諸氏、編集でお世話になった皆さまに謝意を表します。

日本建築学会近畿支部設立70年記念誌

2017年11月29日発行
編集　日本建築学会近畿支部創立70周年 記念事業委員会 <p>実行委員会略史出版委員会</p>
発行　一般社団法人 日本建築学会近畿支部 <p>〒550-0004 大阪市西区鞆本町1-8-4 大阪科学技術センター内 TEL　06-6443-0538 FAX　06-6443-3144</p>

カバーデザイン　西山 愛香（京都工芸繊維大学中野研究室）

本文デザイン　森 夕里子（株式会社ニーモック）



2007
—
2017

日本建築学会近畿支部

〒550-0004

大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター内